

平成30年度事業報告

(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)

はじめに

当財団は、横浜市との連携のもと、横浜に関係した歴史の理解に資する国内外の資料や文化財の調査、研究、収集、保管および公開を行うとともに、歴史や文化財に関する普及啓発を行い、先人たちの歩みや積み上げてきた文化を市民共有のものとし、さらに次世代へ継承していくことで、ふるさと意識の醸成及び市民文化の発展に寄与することを目的としています。

30年度は、第3期指定管理第3年目の年であり、財団事業の一体的な推進、財団業務の一体化を図るなど、指定管理10年間の使命達成に向けた取り組みを深めてきました。財団は、これまでの各館の歴史と役割を十分に活かしつつ、全施設が連携し、それぞれの施設がその強みを発揮し、柔軟な発想と多様性を生み出しながら、魅力ある事業を展開できるよう努めてきました。また、市の施策や事業に対して、これまで以上に連携や支援を積極的に進めるとともに、施設の特色を発揮しながらも、その枠をこえた取組を実施することにより、着実に成果を上げることができました。

また、財務状況は、事業費の抑制や人件費縮減への取り組みにより、着実に改善し、正味財産期末残高ももう一步で基本財産1億円を超えるところまで回復できました。引き続き財務改善に取り組むとともに組織運営の強化・効率化を図ってまいります。

I 財団本部事業

1 財団本部事業（定款第4条第1項第3号）

事業の調整、諸会議の運営等を実施し、円滑な組織運営を図りました。また、公益財団法人として、理事会・評議員会の開催、神奈川県への報告等を的確に実施しました。

	事業区分	事業内容
1	円滑な組織運営	(1) 諸会議の運営 ①役員会 月2回 ②経営会議 月1回 ③課長会 月2回程度 <主な検討項目> ①理事会・評議員会について～議題等の検討 ②財務改善への取組について ③予算要求制度について ④財団経営のあり方について

		⑤人材育成の進め方について ⑥企画展計画、進捗報告 ⑦文化財保護法改正動向について ⑧自己申告制度について ⑨情報セキュリティ管理規則、研修について ⑩情報システムの更新について ⑪横浜市外郭団体 団体経営の方向性及び協約について ⑫事業報告書・決算書作成 ⑬平成 31 年度事業計画・予算書作成について ⑭平成 30 年度の課題と次年度に向けて (2) 自己申告書制度の実施 (3) 人材育成を図る研修の実施 外部研修への参加調整および管理職研修の実施
2	財団人事労務・財務の管理	(1) 財団の財務状況改善に向けた取組 (2) 職員の採用、異動等雇用管理 (3) 就業規則他諸規則の整備及び運用 (4) 給与、社会保険、税金関係等の管理 (5) 定期健康診断の実施等による安全・衛生管理、福利厚生施策の実施 (6) 職員メンタルヘルスの支援 (7) 一体的な取組、連携等を考慮した予算編成・管理・決算の実施 (8) 寄附金・協賛金獲得の企画調整
3	事業と予算編成	(1) 予算要求制度の継続実施 (2) 一体的な取組、連携等を考慮した予算編成・管理・決算の実施
4	災害対応	(1) 防災訓練の実施
5	理事会・評議員会の開催	(1) 理事会の開催 年 8 回 議案検討・確定、招集、開催、議事録作成 (2) 評議員会の開催 年 2 回 議案検討・確定、招集、開催、議事録作成
6	所管局への報告調整	(1) 指定管理・委託事業 報告提出(月次、四半期、年度) (2) 事業報告・決算書に基づく市会報告
7	共同広報の実施	(1) 財団ホームページの管理 情報公開項目の更新等 (2) メルマガ「よこはま歴史かわら版」配信 月1回および臨時号
8	情報システムの管理	(1) 情報システム機器（ソフトウェア等を含む）の保守・管理 (2) 情報セキュリティに関する啓発・研修 (3) 財団内システムの更新
9	事業推進	(1) 開港記念日の取組み 市立小学校の3年生から6年生全員に学校を通じてチラシを配付し、中学校・高校特別支援学校には学級掲示用ポスターを配布

		した。歴博、開港、都発、ユ文ではワークショップを開催した。 (2) システム更新に向けた取り組み 平成31年度4月の情報システムの更新に向け、財団初めての試みであるプロポーザル方式により最適な業者を選定し、ビジネスチャット等、新たなコミュニケーションツールを導入するなど、効率的な組織運営を支えるためのシステム構築に取り組んだ。 (3) オリンピック・パラリンピックへの取り組み オリンピック・パラリンピックを契機に横浜を訪れる外国人観光客へのおもてなしの一環として、横浜の人々の3万年の歴史を英語でわかりやすく紹介する横浜市歴史博物館・遺跡公園のガイドブック「Yokohama History Museum Guide」を歴博と共同で刊行した。(H30横浜市多文化共生市民活動支援補助金交付事業 助成額 919,977円) (4) 教育委員会との連携 新採用教員が横浜の歴史を理解する一助として、新採用教員を対象として全館無料パスポートを配布した。 (5) 財団内研究補助事業 五味理事長から寄付された横浜文化賞報奨金を財源として、財団に研究補助事業を立ち上げ、財団内部の公募に応募した団体のうち、3団体に合計50万円を補助した。
10	エデュケーター事業	(1) 学校との連携 ① 学校団体見学や訪問授業についての広報活動 ② 授業づくりや歴史資料活用に関する相談支援 ③ 学校団体見学における下見の受入 ④ 各館における学校見学時の解説・ガイドダンス実施 ⑤ 高校生・大学生の見学・研修への対応 ⑥ 学校への訪問授業及び講演会等の実施 実施校30校 対象児童3,576人 (2) 教育委員会・各種研究会との連携 ① 財団主催教員研修「吉田新田学習会」の企画・運営 ② 教育委員会主催「博物館活用研修会」の内容調整、運営 ③ 横浜市立学校教員の「授業づくり講座」への対応 ④ 各校種社会科研究会への協力（「歴史ウォーク」の支援、授業相談、研究発表会への協力など） ⑤ 教員の横浜に関する歴史理解を促すための「横浜歴史ガイド～横浜市域に遺る戦争の蹟～」を作成 (3) 文化庁助成事業への参画 「よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業」において校内資料室視察および活用検討会を随時開催 (4) その他関係団体との連携

		① 学校・地域コーディネーターフォーラムへの参加 (博物館の資料活用による教育支援・訪問授業の企画) ② 歴史博物館常設展示・遺跡公園ガイドボランティア養成研修への支援
--	--	--

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
本部事業	協約目標の達成に向けて財団が一体となって各事業を展開してきた。 財団の財務状況については、事業支出の抑制や人件費縮減の取り組みにより、一定の改善を図ることができた。 業務の調整、諸会議の運営、人事労務事務等は適切に実施することができた。	A

Ⅱ 指定管理事業

1 財団全体としての取り組み及び事業

30年度は、第3期指定管理3年目であることから、「5館一括10年」の基盤づくり完成期と位置づけ、事業を進めてきました。財団各館のこれまでの歴史と役割を十分に生かしつつ、それぞれの施設の強みを生かし、柔軟な発想と多様性を生み出しながら、財団施設の一体的運営を念頭に事業を実施しました。

具体的には、昨年度に引き続き、「柔軟な発想と多様性を生み出す連携」と「活力ある、魅力的な組織への取組」を特に意識すべき事項として、事業を展開しました。

そうした中、各館の専門職が連携し、同じテーマに共同で取り組むなど、横断的な調査・研究を行うとともに、アンケート調査やこれまでの企画展の振り返りを活用して、市民の皆様にとって魅力的な企画・展示、あるいは講座・出版となるよう取り組みました。

また、まちの賑わい創りと連動した取組みのほか、区や地域をはじめ多様な組織と連携した多彩な取組み、各館による情報発信などを通して、歴史と博物館の魅力を伝えてきました。

<財団内における共同研究>

研究テーマ	内容	中心となる施設
戦中・戦後期の都市横浜に関する連携研究	戦争の時代から戦災復興を経て、高度経済成長への至る昭和期横浜の歴史を多角的に明らかにする調査	開港資料館 都市発展記念館

	研究を行った。今年度は8回の定例会を開催し、都発ホームページで『広報よこはま』（昭和38年～44年）の記事見出し一覧の公開を開始した。	市史資料室
地図データベース作成に関する調査研究	各館が所蔵する地図資料を横断的に検索ができるよう、資料の整理・目録化を行った。3施設の既存の地図データを統合して母体となるデータベースを作成し、都発ホームページで代表的な地図資料の高精細画像データの公開を開始した。	開港資料館 都市発展記念館 市史資料室
中山家資料共同調査	都筑区川和町の旧家である中山恒三郎家資料について、当主から追加の現地調査を実施するとともに、今後の資料活用について相談した。	開港資料館 歴史博物館 都市発展記念館
昭和期の横浜の都市生活に関する調査研究	昭和期の横浜の都市生活の具体的な様相を明らかにすることを目的として、磯子区の時計店に勤務していた青年の日記（下平政熙日記）を分析した。今年度は戦中期（昭和15～19年）をもとに、横浜の都市生活の具体的様相を検討し、その成果を『横浜都市発展記念館紀要』で報告した。	歴史博物館 都市発展記念館
ユーラシア概念をめぐる研究	外部研究者の協力を得て、日本や東アジアを含むユーラシア諸地域の文化交流について最新の研究成果を共有した。各研究報告の内容は、ユーラシア文化館紀要にて要旨を公開した。	歴史博物館 ユーラシア文化館
銭湯を中心とする横浜の公衆衛生に関する研究	展覧会の開催に向けて両館で調査を進め、協議を経て両館連係で「銭湯と横浜」展を開催した。	歴史博物館 開港資料館

＜多様な連携＞

連携	連携先	中心となる施設	内 容
区との連携	中区	開港資料館 都市発展記念館	中区広報に連載執筆
	磯子区	三殿台考古館	区内の市民利用施設が企画するゴールデンウィーク企画に参加。「いそっぴゴールデンウィーク 2018 スタンプラリー」
	金沢区	歴史博物館 埋蔵文化財センター	歴史協定による連携事業 よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業による活動の拡大 金沢区制70周年事業に連携し、『金沢区の重要遺跡』をテーマとした講座を開催
	港北区	歴史博物館	城郷小机地区センターの展示物作成・設置業務

	青葉区	歴史博物館 総務課	・区生涯学習講座、AOBA デジタル・アートミュージアムへのコンテンツ提供 ・小学校歴史資料室への援助と交流
	都筑区	全施設 総務課	区制 25 周年記念誌「図説都筑の歴史」刊行協力
	栄区	埋蔵文化財センター 総務課	図書館事業への協力
市との連携	市民局オリンピック・パラリンピック推進課 環境創造局みどりアップ推進課	開港資料館	旧館ホールでのパネル展示の企画・実施協力
教育委員会との連携	授業づくり講座	全施設	社会科、日本史、世界史、美術等の学習を豊かにするための職員向け研修への協力
	アイカレッジ	全施設	横浜の歴史を学ぶ
	教員研修	全施設	横浜の歴史を学ぶ
	子どもアドベンチャーへの協力	開港資料館 三殿台考古館 埋蔵文化財センター	教育委員会主催事業 8 月 16 日実施
	高校教育	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	グローバル人材の育成 海外大学進学支援プログラム
社会科研究会（市・区）	市研究会 区研究会	全施設	教員研修
学校連携	訪問授業	全施設	学芸員による訪問講座
	歴史マップ作成	歴史博物館	エデュケーターを中心とした資料作りおよび普及啓発
	学校の歴史資料室の活用	歴史博物館	博物館デビュー支援事業の継続（文化庁補助事業）
	職業体験受入れ	全施設	中学校 2 年生キャリア教育への協力
	中学校社会科作品展	歴史博物館	継続社会科研究の展示発表（常設展示室）
	県立高校との連携	歴史博物館	インターンシップの受け入れ
	県内高校社会科クラブとの連携	開港資料館	社会科クラブ（高文連）生徒への研修・指導
	地域交流クラブ等への支援	三殿台考古館	近隣小学校への支援

	神奈川・西・中区の小学校	開港資料館	神奈川台場地域活性化推進協会と共同で「神奈川台場物語」を執筆・監修し、神奈川区、西区、中区の小学校6年生全員に配布
大学連携	神奈川大学	歴史博物館	2020年企画展の連携調査実施
	関東学院大学	ユーラシア文化館	関東学院大学の後援で記念講演会を実施
	東海大学	歴史博物館 開港資料館	2017年に開催した「明治維新150年」シンポジウムの報告書を刊行
	東京藝術大学など	ユーラシア文化館	大学院の保存修復に関する学外授業に対応して、資料熟覧・展示解説などを実施
他館との連携	三重県立斎宮歴史博物館	歴史博物館	公開講座の共同開催
	早稲田大学會津八一記念博物館	ユーラシア文化館	企画展「博士の愛した中国陶磁」及び記念講演会を共催
市民団体との連携	横浜郷土史団体連絡協議会	歴史博物館 開港資料館	協議会の事務局をつとめ研修や協働事業を実施
	地域歴史散策	埋蔵文化財センター	栄地域史研究会と連携して、地域の遺跡や由緒ある寺社を見学・散策
	展覧会 ワークショップ	都市発展記念館 ユーラシア文化館	活動支援ボランティアと連携して、企画展開催時の土・日にワークショップを開催
	NPO法人 結ぶ	歴史博物館	エントランスと講堂を会場とした、あったか復興支援「わすれない3.11 応援しよう都筑から」を共催
地域参画 地域連携	NPO法人 都筑民家園管理運営委員会	歴史博物館	文化イベント（「都筑アート&ヒストリー」）の連携実施
	タウンセンター 活性化検討会	歴史博物館	センター南・北の活性化企画や催しの実施
	駕牛会・印融法 印五百回忌法会 実行委員会	歴史博物館	講堂を会場に講演会を実施
	日本大通り 活性化委員会	都市発展記念館 ユーラシア文化館	日本大通り周辺の事業所が連携し、活性化企画や催しの実施
	山下公園通り会	開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	山下公園通り周辺の事業所が連携し、横浜セントラルタウン・フェスティバル Y159 などの実施。5月26日・27日の Y159 の2日間、3館は入館無料
	国際フェスタ 参加	ユーラシア文化館	「よこはま国際フェスタ」に参加し、イベントブースを設置。
民間事業者	富士ゼロックス	歴史博物館	・企画展における最先端の展示手法の実験

連携	(株) 都筑阪急 朝日新聞横浜総局 菜香 (株)	歴史博物館 歴史博物館 ユーラシア文化館	・モザイクモール港北の観覧車に招待 ・企画展「神奈川の記憶」を共同主催 ・菜香新館（横浜中華街）での「清芳午餐（せいほうランチ）」企画の実施
学会との連携	地方史研究協議会	開港資料館 歴史博物館 都市発展記念館	第 69 回地方史研究協議会大会を横浜市開港記念会館で同協議会と共催で開催

2 歴史博物館事業

調査研究事業は全てのテーマを予定通り実施し、各テーマは今後の企画展に活かされるなど、広く市民に還元していきます。常設展示室の活性化は引き続き大きな課題となっています。本年度は、常設展示室のガイドボランティア活動のより一層の充実をはかるとともに、多目的空間であるスタディサロンにおいてミニ展示や大小イベントを開催し、空間の魅力向上に努めました。

企画普及事業は多様な事業を展開しました。企画展は6回開催しました。明治150年を記念した展示を開港資料館と連携して実施したほか、寄木細工コレクションの展示では美術工芸の分野を扱い当館の新境地となりました。また朝日新聞横浜総局と連携した新聞記事を題材にした企画は、その新規性と新発見資料により話題を呼びました。古代の馬と牧の展示は長年の研究蓄積を還元した企画で専門家から注目されました。各種講演会や講座は市民との協働企画を大幅に増やし、市民感覚にあったラインナップとなりました。体験学習は当日参加型の「れきし工房」を体験学習室で新たに開始し好評を得ました。

本年度も外部諸団体との連携に力を入れました。とりわけ北部地域との関係を深める普及事業を展開しました。「図説都筑の歴史」編さんへの協力や茅ヶ崎城に関するリーフレットの発行を通し、地元根づく博物館という姿勢を打ち出せたと考えます。

市民協働では、ガイドボランティアに加え、活動支援ボランティアが活動の幅を広げました。前出の「れきし工房」の運用もボランティアの活動抜きにはありえません。また博物館に集う関連団体とも多彩な連携事業を展開しました。横浜さいかちの会と企画・実施した「さいかち中世史講座」はその代表的な事業です。学校連携に関しては、アクティブラーニングを意識した「君も今日から考古学者！」展をさらに充実させ、生涯学習機関としての幅を広げました。

施設の管理運営面では、次年度に実施予定の大規模修繕の準備に迫られました。また、文化庁の新たな助成文化芸術振興費補助金「地域の美術館・歴史博物館クラスター形成支援事業」に応募し、「よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業」として採択されました。一年目の本年度は地域の「観光」を念頭におき、今後5年間を方向づける様々な活動を実施することができました。

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

展示・教育・普及・閲覧公開等の博物館活動に活用する資料を、購入・寄贈・マイクロ撮影等で収集し、分類・整理するとともに良好な状態で保管するため、資料の燻蒸を行いました。

(1) 資料の収集・管理

項 目	点 数	事 業 内 容
資料の寄贈・寄託	寄贈 11 件 6,226 点 寄託 1 件 3 点	主な寄贈資料：百万塔、龍吐水、活字見本帳、掛軸など 主な寄託資料：横浜明細全図
実物資料の購入	3 件 94 点	主な収集資料：街頭紙芝居、東叡山文殊楼焼討之図など
マイクロ撮影	2000 コマ 製本 10 冊	主な資料：金沢藩士萩原家文書
資料の修繕・保存		上矢部富士山古墳出土埴輪復元・
資料の整理活用（収集資料のデータ入力）	2, 6 3 8 件	図書文献資料のデータ入力を行った。
資料の整理活用（収集資料の貸出）	3 件 5 7 点	他の博物館・資料館での企画展・特別展、および調査研究のために本館所蔵資料の貸出を行った。
図書資料の公開	5, 0 8 8 件	図書閲覧室で、文献資料の公開及びレファレンスを行った。
写真資料の撮影・整理	撮影数 1,274 カット	常設展示や企画展・特別展に関する資料及び収蔵資料の撮影と整理を行った。
画像資料の貸出	貸出件数 41 件 92 点	他の博物館や公共機関、出版社などへの写真資料の貸出を行った。

(2) 資料収集内訳 (H30.4～H31.3)

区 分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
絵 画 (点)	(1 9)	(—)	2 (—)	(—)	2 (1 9)	1, 9 7 8 (1, 9 7 6)
工芸品 (点)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	1 3 2 (1 3 2)
彫 刻 (点)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	2 0 (2 0)
書 跡 (点)	(—)	(—)	1 (—)	(—)	1 (—)	5 4 (5 3)
典 籍 (点)	4 (2)	(—)	4 4 (—)	(—)	4 8 (2)	4, 7 0 9 (4, 6 6 1)
古文書 (点)	(—)	(—)	2 4 4 (1 3 1)	(—)	2 4 4 (1 3 1)	3 2, 1 5 2 (3 1, 9 0 8)
古記録 (点)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	5 5 (5 5)
絵 図 (点)	(—)	(—)	(—)	3 (—)	3 (—)	1 7 2 (1 6 9)
歴史資料 (点)	(—)	(—)	1, 9 8 8 (8)	(—)	1, 9 8 8 (8)	1 8, 8 6 5 (1 6, 8 7 7)
考古資料 (点)	(—)	(—)	4, 1 1 9 (5 2 5)	(—)	4, 1 1 9 (5 2 5)	2 4, 5 3 5 (2 0, 4 1 6)
民俗資料 (点)	9 0 (1 7 1)	(—)	7 (3 3 6)	(—)	9 7 (5 0 7)	1 3, 2 2 2 (1 3, 1 2 5)
図書文献資料 (点)	1 2 5 (8 1)	(—)	1, 6 0 2 (2, 3 0 5)	(—)	1, 7 2 7 (2, 2 8 6)	7 2, 6 8 5 (7 0, 9 5 8)
合 計	2 1 9 (2 7 3)	(—)	8, 0 0 7 (3, 2 9 7)	3 (—)	8, 2 2 9 (3, 5 7 0)	1 6 8, 5 7 9 (1 6 0, 3 5 0)

※ () 内は、前年度点数

(3) 図書閲覧室利用状況

項 目	平成30年	平成29年	平成28年
閲覧室利用者数(人)	7, 193	7, 449	9, 288
複写申込件数(件)	536	470	510
複写枚数(枚)	5, 887	4, 560	4, 530
レファレンス件数(件)	762	735	690

(4) 資料の保管

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
文化財害虫への対応	新規収蔵資料はすべて燻蒸を実施の上、収蔵庫に搬入したほか、収蔵庫から出した資料は、資料の種別や利用場所等に応じて点検を行い、必要のある資料は再度燻蒸して入庫する措置をとった。
保存燻蒸処理	燻蒸庫を利用した二酸化炭素燻蒸を6月、7月、10月、12月、3月の計5回行なった。
環境検査	館の環境を把握するため、定期的に昆虫類モニタリング、菌類測定、塵埃測定、光学的測定を行った。

(5) 資料保管施設の管理

保管施設	保 管 資 料
歴史博物館収蔵庫 (1,901 m ²)	原始・古代から近現代までの各資料を保管する考古収蔵庫・歴史収蔵庫・特別収蔵庫・民俗収蔵庫の管理を行った。

(6) 川和町中山家の調査

横浜市認定歴史的建造物に認定された横浜市都筑区川和町の「中山恒三郎家店蔵及び書院」を活用すべく、現地に保存されている民俗資料や歴史博物館・開港資料館へ移動した同家の資料群について、よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業との共催事業として整理を実施した。

2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

博物館活動の原資となる調査研究は、当館で行なう調査研究、他施設と連携して行なう連携調査研究、次年度以降の企画展開催に向けた調査研究を設定し、実施しました。

(1) 基礎資料研究

項 目	目的・意図
基礎資料研究	
横浜市域貝塚の研究 (3/3年次)	縄文時代後期のイルカ漁についての論文「東京湾沿岸のイルカ漁」(『考古学の地平Ⅱ』六一書房、2019年5月刊行予定)を執筆した。これは2015年度の企画展「称名寺貝塚：土器とイルカと縄文人」から引き続き行ってきた一連の調査研究の成果である。 弥生時代貝塚出土資料については整理作業の途中であるが、基本的な種の同定は終了している。

横浜市内の後期旧石器遺物の研究（3／3年次）	藤沢市内、境川の後期旧石器時代遺跡、右岸4遺跡、左岸1遺跡について様相を概観した。いずれの遺跡も境川から最も近い台地縁辺に占地しており、境川左岸の遺跡の分布状態と大きく異なっているわけではないが、出土遺物、遺構には大きな違いがあることをあらためて確認した。
上矢部富士山古墳出土埴輪の研究（3／3年次）	本年度は埴輪の整理作業―注記・接合・復元作業および台帳作成を継続した。作業過程で、円筒埴輪の製作に複数の工人集団が関わっていた可能性があることがわかった。朝日新聞文化財団の文化財保護助成を受ける本事業は、同財団助成の3年目に当たる来年度に報告書を取りまとめて完了する予定である。
市域所在の中世資料の調査（3／3年次）	昨年度に調査を実施した、岸家文書、関家文書についての調査を進めた。新たに小机衆の沼上家について文書調査を行ったが、残念ながら中世文書を見つけることはできなかった。また、雲松院文書を活用し、城郷地区センターの展示替を行った。
横浜市指定・登録民俗文化財に関わる調査研究（3／3年次）	本年度は都筑区池辺町菰根の廻り地蔵を対象とした。この廻り地蔵については、文化庁の補助金を得て、厨子と地蔵菩薩像の現状調査および修復を実施した。その結果、江戸期以来の像であることが推定された。
テーマ研究	
横浜・市域の牧の研究（3／3年次）	古代武蔵・相模を中心とする関東近県の馬匹生産と馬の利用に関わる考古資料や、中央政府の馬政に関する文献資料を調査し、企画展「横浜の野を駆ける―古代東国の牧と馬―」において3年間の成果を公表し、展示図録を刊行した。
幕末維新期の政局と横浜の村々の研究（3／3年次）	昨年度に引き続き、横浜の地方文書（市場村添田家、綱島村池谷家などの個人蔵のもの中心）の調査・分析を行い、並行して展示に向けて昨年度までの研究をまとめる作業を進めた。これまで戊辰戦争との関係を論じられてこなかった市域村々や武州金沢藩について、戦争とのかかわりを明らかにすることができ、成果を企画展「戊辰の横浜」および図録で公開した。
近世後期の横浜・市域と「外圧」の研究（2／2年次）	横浜の外国人の存在がどのような影響を日本・横浜に及ぼしたのかという問題について、戊辰戦争との関連も踏まえながら検討し、その成果を企画展「戊辰の横浜」、同展図録「戊辰の横浜」、開港資料館紀要「慶応四年佐賀藩の横浜駐屯」で報告した。
学校内歴史資料室に関する研究（3／3年次）	本調査研究は、博物館デビュー支援事業実行委員会（会長 鈴木靖民）が文化庁の補助を得て進めた博物館デビュー支援事業の後継事業である、よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業と相互に連携してすすめるものである。今年度は京都市学校歴史博物館が刊行した『みんなで活かせる！学校資料 学校資料活用ハンドブック』および地方史研究協議会編『学校資料の未来』へ寄稿し最新の学校内歴史資料室に関する情報の発信をおこなった。
市民協働調査研究	
土器の実験考古学的研究（3／3年次）	昨年度に引き続き「横浜縄文土器づくりの会」の協力を得て、大塚遺跡出土の台付甕と甕の製作実験と焼成実験を実施した。台付甕の接合部分の検討と覆い型野焼きの実績を蓄積することができた。

武州金沢藩目付日記の研究（3／3年次）	横浜古文書を読む会とともに、武州金沢藩の目付日記（当館所蔵）の解説・翻刻を行った。本年度は明治2年1月～11月の部分について作業を進め、釈文・註を『横浜市歴史博物館紀要 VOL. 23』に掲載した。所蔵資料の公開は博物館の使命のひとつであるため、今後も引き続き解説・翻刻作業を進めていきたい。
市民協働民俗調査（3／3年次）	鶴見川支流にあたる恩田川をテーマとし、昨年度に引き続き「民俗に親しむ会」とともに、フィールドワークを行った。 今年度は主に町田市域の恩田川上流域を歩いたほか、相模原市立博物館の学芸員を招いての「相模野台地と多摩丘陵」をテーマにしたフィールドワークも実施し、地形や景観が異なる様相を確認できた。

（2）連携調査研究

複数の時代・分野に関わるテーマについて、当財団が管理する諸施設との連携研究を実施した。

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
大塚遺跡の水田に関する研究（3／3年次）	昨年度の成果を踏まえて、再度ボーリング予定箇所の精査を行った。候補地点を確定させて平成31年度初頭に実施予定である。 より広範なボーリング調査の実施に向けて「弥生時代集落密集地における地下埋没水田遺構の探索」というテーマで2019年度の科研費挑戦的研究(萌芽)へ申請を行った。採択の可否は2019年の夏ごろとなっている。
ユーラシア概念をめぐる研究（3／5年）	ユーラシア文化館と連携し、共同研究会を実施。歴史博物館学芸員および外部研究者の協力を得て、日本や東アジアを含むユーラシア諸地域の文化交流について最新の調査研究成果を共有した。各研究報告については、ユーラシア文化館紀要にて要旨を公開した。
昭和期の横浜の都市生活に関する調査研究（2／3年次）	昭和期の横浜の都市生活の具体的な様相を明らかにすることを目的として、磯子区の時計店に勤務していた青年の日記（下平政熙日記）を分析した。今年度は戦中期（昭和15～19年）横浜の都市生活の具体的様相を検討し、その成果を『横浜都市発展記念館紀要』で報告した。

（3）企画展関係にともなう調査研究：企画展・特別展の開催に向けての調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
「ムラに生きる人々」に関する調査研究	31年度以降に開催する予定の企画展の検討と、基礎的な資料の調査を行った。
「人と物の流れ」に関する調査研究	31年度以降に開催する予定の企画展の検討と、基礎的な資料の調査を行った。
「変わる横浜の形」に関する調査研究	31年度以降に開催する予定の企画展の検討と、基礎的な資料の調査を行った。

（4）資料の調査整理

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
-----	----------------

資料の整理	資料収集活動や調査研究で収集した資料・データ等の整理を行った。
-------	---------------------------------

3 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）

常設展示室においては、展示ボランティアによる常設展示室の解説を充実させた。また、毎月最終土曜日のラストサタデープログラム実施し、土器パズルやスタンプ等を開催したほか、収蔵資料などを公開する「ミニ展示」を実施し、会期中に学芸員による解説を行った。

また展示資料・ジオラマ類・映像機器類の保守点検を実施した。

このほか総務課が作成した英文の展示ガイドブックの編集に協力した。



ミニ展示「印融上人関係資料」

（1）常設展示室での実施事業

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
常設展示ミニ展示の実施	常設展示室で収蔵資料等を紹介するミニ展示を開催した。 12/23（土）～5/9（水）「よみがえれ！ヨコハマのハニワたち」 6/2（土）～7/16（水）「小机城の発掘調査」 7/21（土）～9/2（日）「印融上人関係資料」 9/22（土）～11/11（日）「横浜漆器 透き絵の世界」 11/20（火）～3/31（日）「ちょっと昔を探してみよう」

（2）常設展示室観覧者の推移（目標数 75,500 人）

	有料観覧者（人）				無料観覧者（人）	合計（人）	前年比	開館 日数	1日平均 入館者(人)
	大人	高大	小中	計					
30 年度	10,334	1,348	6,148	17,830	50,524	68,354	96.2%	310 日	220
29 年度	11,038	1,684	6,447	19,169	51,877	71,046	102.0%	310 日	229
28 年度	10,592	1,484	7,320	19,396	50,242	69,638	100.7%	311 日	223

（3）展示解説ボランティア

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
展示解説ボランティア実施	ガイドボランティアによる常設展示室の解説を実施した。

4 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

常設展示を補うテーマや、新たな調査研究の成果に基づく企画展示を開催しました。同時に、市民に横浜の歴史をより身近で興味深く感じてもらえるように各種の体験学習や歴史講座等を開催し、生涯学習活動を支援しました。

また、地域・学校や市民ボランティアと連携した事業や、施設や遺跡公園の有効活用と認知度・顧客満足度を高めるための事業を実施しました。とりわけ、地元都筑の区役所や市民活動団体と多彩な取り組みを実施し、いずれも好評を得ました。

(1) 企画展・特別展の実施

企画展名/開催期間	観覧料	観覧者数	目的・意図 及び 内容・成果
企画展「君も今日から 考古学者！－横浜発 掘物語 2018－」 平成 30 年 4 月 7 日 (土)～7 月 1 日(日) 会期 74 日(開催日、 以下同じ)	大人 300 円 高大 200 円 小中 100 円	30,456 人 (目標数 31,300 人) 1 日あたり 411 人	昨年度ほぼ固定化したパッケージ展示にアクティブラーニングの要素を加えた。毎年 4～6 月に社会科見学で訪れる小学 6 年生を主なターゲットとして、考古学の基礎と横浜の遺跡について、わかりやすく伝える展示を目指した。展示資料は、基本的にすべて横浜市内から出土した財団関連施設保管資料である。また埋蔵文化財センターの「平成 30 年度横浜の発掘調査成果速報展」を同時開催した。 関連事業 遺跡を掘ろう(擬似発掘体験) 10 回 378 人 親子フロレク(展示解説) 5 回 68 人
企画展「戊辰の横浜 名もなき民の慶応 4 年」 平成 30 年 7 月 21 日 (土)～9 月 9 日(日) 会期 44 日	大人 500 円 高大 200 円 小中 100 円	5,974 人 (目標数 7,800 人) 1 日あたり 136 人	明治 150 年をうけ、戊辰戦争時を中心に、横浜市域の村々や藩で何が起こったのか、その実態を紹介した。本展は調査研究の成果をもとに、新政府軍と村々、農兵隊、上野戦争前後の旧幕府勢力と村々、などのトピックを掲げ、戊辰戦争と横浜の村々との関係を明らかにした。なお本展は横浜開港資料館「戊辰の横浜 開港都市の明治元年」との連携展示である。 関連事業 講演会 1 回 185 人 講座 3 回 261 人 フロアレクチャー 4 回 205 人
企画展「寄木細工 Art & History-金子皓彦 コレクションを中心 に-」 平成 30 年 9 月 22 日 (土)～11 月 11 日 (日) 会期 44 日	大人 600 円 高大 300 円 小中 100 円	5,563 人 (目標数 5,800 人) 1 日あたり 126 人	神奈川県工芸品として親しまれている寄木細工について、金子皓彦コレクションを中心に、工芸的な視点のほか、歴史的、民俗的な視点を交えて紹介した。 展示は、寄木細工の種類と文様、寄木細工の始まりと展開、寄木細工の製作技術、寄木細工美の世界などから構成し、寄木細工の魅力を多角的に紹介する内容となった。 関連事業 講演会 1 回 61 人 ワークショップ(見てみよう、寄木細工づくり) 2 回 80 人 フロアレクチャー 2 回 139 人
企画展「神奈川の記	大人	6,785 人	朝日新聞神奈川版の連載「神奈川の記憶」は、神奈川

憶一歴史を見つめる 新聞記者の視点一」 平成 30 年 11 月 23 日（金祝）～平成 31 年 1 月 14 日（月祝） 会期 39 日	400 円 高大 200 円 小中 100 円	（目標数 5,300 人） 1 日あた り 174 人	県の身近な歴史や文化を発掘し、その内容や意義を新聞記者の視点から提示してきた記事。本展では、その中から 20 話ほどを選び、記事で紹介された資料とともに展示した新聞媒体と博物館展示のコラボレーション。 関連事業 展示資料緊急報告会 1 回 58 人 ミニシンポジウム 2 回 159 人 講座 2 回 131 人 フロアレクチャー 3 回 160 人
企画展「平成 30 年度 横浜市指定・登録文化 財展」 平成 30 年 11 月 23 日（金祝）～平成 31 年 1 月 14 日（月祝） 会期 39 日	大人 400 円 高大 200 円 小中 100 円	「神奈川 の記憶」 展と同時 開催	平成 30 年度に横浜市が指定した文化財、また重文となった文化財を全て紹介したほか、過去に市指定となった有形・無形民俗文化財を 5 件も展示した。 関連行事 講座 1 回 15 人 フロアレクチャー 3 回 81 人 紙芝居実演 12 回 285 人
企画展「横浜の野を駆け る一古代東国の馬 と牧一」 平成 31 年 1 月 30 日 （水）～3 月 21 日（木 祝） 会期 44 日	大人 600 円 高大 300 円 小中 100 円	13,389 人 （目標数 16,800 人） 1 日あたり 304 人	横浜市域を含む武蔵国には 6 箇所の勅旨牧が置かれ、そのうち 2 箇所は鶴見川流域にあったとみる説が有力であるが、本展では古代の有力な馬産地の一つであった武蔵国を中心とする南関東の馬生産や交通の様相について、重要文化財を含む馬具などの考古資料や絵画資料、古典籍をまじえて紹介した。 関連事業 講演会 1 回 258 人 シンポジウム 1 回 140 人 講座 3 回 145 人 フロアレクチャー 3 回 132 人 特別企画（ポニーと触れあおう！） 75 人

（２）企画展示室観覧者の推移

	有料観覧者（人）				無料観覧者 （人）	合計 （人）	前年比	開催 日数	1 日平均 入館者(人)
	大人	高大	小中	計					
30 年度	8,620	845	4,034	13,559	48,608	62,167	92.8%	248 日	251
29 年度	9,120	962	4,433	14,515	53,184	67,699	100.4%	245 日	276
28 年度	5,195	455	4,376	10,026	57,386	67,412	108.8%	240 日	280

（３）フリースペースでの展示

名称/開催日	観覧者数	事業内容
ミニ展示「サメ歯製漁具」（廊下） 1/30（火）～7/1（日）	26,101 人	テレビ番組で紹介されたサメ歯製漁具を展示。試みに赤外線センサーで観覧者数を計った。

写真展「セン北☆街の うつりかわり」(エント ランス～2F スロープ) 3/11(日)～6/3(日)		当館の写真担当学芸員が撮影したセンター北の定点観測写真
(公財) かながわ考古 学財団「平成 30 年度 発掘調査成果速報展示 会」(廊下) 7/3(火)～7/8(日)		同財団の前年度(平成 29)発掘成果を中心とする速報展。県 下での大発見となった中空土偶が初公開された。
横浜縄文土器づくりの 会「作品展」(廊下) 12/16(日)～2/3(日)		同会会員の作品展。会期中の土日には会員による展示解説を 行い、感謝デー両日(2/2・3)には土器作成のワークショップ を実施。
公開講座「斎宮跡と古 代官」関連ミニミニ展 示(廊下) 2/5(火)～2/24(日)		三重県立斎宮歴史博物館との連携公開講座の関連企画とし て、重要文化財羊形硯・鳥形硯のレプリカと、国史跡斎宮跡解 説パネルを展示。
ミニ展示「沖縄に行っ てきました！」(廊下) 2/9(土)～3/7(木)		沖縄県立博物館・美術館で開催された「縄文と沖縄展」へ の貸出資料を中心とした里帰り展。
「わたしたちの作った 縄文土器展」(廊下) 3/27(水)～3/31(日)		縄文土器作り講座受講生の作品展。モデルとなった実物土器 とともに展示。

(4) 歴史講座等の開催

講座名称/開催日	参加者数	事業内容
印融法印 500 回忌記念 講演会 7/21(土)	93 人	印融法印 500 回忌を記念して駕牛会・印融法印五百回忌法会 実行委員会ともに「印融—その生涯と学問—」と題して講演会 を行った。 講師：相澤雅雄氏(郷土史家)「印融法印ゆかりの地・横浜市 緑区の遺跡をめぐる」 西岡芳文氏(上智大学特任教授)「中世の横浜と印融法 印の周辺」 会場：歴史博物館 講堂 参加料無料
郷土講演会(「図説 都 筑の歴史」刊行プレイ ベント) 9/29(土)、2/23(土)	9/29(土)143 人 2/23(土)178 人	都筑図書館・都筑区役所と連携して「図説 都筑の歴史」刊行 プレイベントの講演会を行った。 9/29(土) 講師：相澤雅雄氏(郷土史家)「明治維新以後の都筑」 2/23(土) 講師：室田昌子氏(東京都市大学教授)「港北ニュータウンの 成り立ちから見た現在」 会場：歴史博物館 講堂 参加料無料

古文書解説教室 初めての古文書 11/2(金) ～12/21(金) 毎金曜 8回連続	各回 27人 合計 216人	初心者を対象に江戸時代の古文書を教材として解説の初歩を学ぶ講座を行った。 講師：当館小林・石崎 会場：歴史博物館 研修室 参加料：5,000円
開館24周年記念 特別講演会 2/11(月祝)	258人	開館24周年を記念して「どうして馬は倭国へやって来たのか」と題し講演会を行った。 講師：白石太一郎氏(国立歴史民俗博物館名誉教授) 会場：歴史博物館 講堂・研修室
実験考古学講座 「縄文土器づくり」 2/9(土) ～3/24(日)全5回	申込20人 合計100人	実験考古学的な視点から港北ニュータウン出土の縄文土器をモデルにした土器づくり講座を行った。実技は横浜縄文土器づくりの会が指導した。 作品展示前出 会場：工房・遺跡公園体験広場 参加料：5,000円
銅鏡チョコを作ろう 2/11(月祝) 縄文ドッキーを作ろう 3/10(日)	AM4人 PM4人 AM7人 PM6人	横浜の歴史に親しみ、遺物の制作方法や考古学の研究手法についておいしく学べるお菓子作りワークショップとして開催した。チョコは日吉矢上古墳出土だ龍鏡、ドッキーは市内出土縄文土器をモデルとし、当館学芸員が講師を担当した。
講師派遣		各区や地域の郷土史団体等が主催する講座・講演会へ学芸員を派遣した。 6/16(土)・7/1(日)・7/8(日)「北海道・北東北の縄文遺跡群」世界遺産登録啓蒙イベント」高橋 青森県世界文化遺産登録推進室 7/11(火)「古代東国の馬と牧一勅使牧の成立を中心に一」柳沼 青葉区郷土史の会 7/14(金)「中世・庶民信仰と経済 寺院の賽銭」阿諏訪 青葉区郷土史の会 9/14(金)「地誌に見る青葉のあゆみ歴史探訪 PARTⅢ」小林 青葉区郷土史の会 9/19(水)「考古学から見たアイヌ文化」高橋 かながわ考古学同好会 10/7(日)「縄文の森秋祭り」高橋 西東京市教育委員会 10/7(日)「古文書講座」小林 神奈川県立公文書館 11/4(日)「幕末、横浜の歴史」小林 本郷ふじやま公園 11/5(月)「戊辰の横浜 村々の慶応4年」小林 横浜商科大学・野毛地区センター 11/14(水)「大山信仰と富士山信仰」小林 都筑区地域振興課

		11/20（火）「職業講話」小林 横浜市立高田中学校 12/11（火）「神奈川の浦島伝説」阿諏訪 横浜市立大学 12/15（土）「縄文と沖縄関連イベント」高橋 沖縄県立博物館・美術館 2/23（土）「海の貝をめぐる三浦のいにしえ」高橋 三浦市白石洞穴学術調査団
--	--	---

（５）体験学習の実施

会場/開催日	参加者数	参加料	事業内容
体験コーナー 4月～6月		無料	小学校団体が多い4～6月にかけて、体験学習室で火起こし疑似体験できるコーナーを設置し、活動支援ボランティアによるミニ体験を実施した。
当日参加型れきし工房		各プログラムで異なる	本年7月25日より、博物館1階のミュージアムで販売しているオリジナルのものづくりキットを購入すれば、体験学習室において活動支援ボランティアのサポートを受けながら、ものづくりの体験ができるようあらたに「当日参加型れきし工房」をスタートした。 期間：平成30年7月25日～平成31年3月31日 ・小田原提灯 45人 ・まゆ細工 76人 ・まが玉 青田石 84人 ・まが玉 かつ石 642人 ・あじろ網 小物入れ 122人 ・あじろ網 ポシェット 65人 ・あじろ網 トートバッグ 9人 体験者合計 1043人
事前申込れきし工房 (年度通算7日12回)	168人	各プログラムで異なる	小学生から大人までを対象に、楽しみながら歴史に触れるワークショップを開催した。 4/21(日) 土偶作り 29人 8/3(金) 万祝染 18人 8/4(土) 万祝染 18人 12/15(土) 和風 21人 2/16(土) 小さな縄文土器 28人 3/2(土) 和紙(紙漉き) 36人 3/3(日) 和綴手帳 18人
竪穴住居に泊まろう	7家族 22人	大人2000円 子供1000円	小学生を含む家族を対象に竪穴住居に宿泊する体験教室。火起こし・竪穴住居での食事・夜の遺跡見学・宿泊を実施した。7/15・16(日・月祝)

出張ワークショップ	60 人	500 円	都筑地区センターの事業に共催し、勾玉作りのワークショップを同センターで実施した。10/28（日）
体験広場野焼き		無料	横浜縄文土器づくりの会と協働で、体験学習や会の事業として制作した土器等の野焼きを行い、市民に公開した。 5/5（土祝）、10/20（土）、3/23（土）

（６）集客イベント等

項 目	開催日	参加者数	事 業 内 容
都筑阪急 モザイクモール観 覧車優待	半額優待 4/7～7/1、2/2・3 全額優待 6/23・24・30、11/3	半額優待 79 件 全額優待 178 件	都筑阪急とタイアップし、入館券の半券ないし特別チケットでモザイクモール観覧車を半額もしくは全額優待。企画展・横浜発掘物語2018、秋のサンクスデー・博物館感謝デー
開港記念日	6/2（土）	1,453 人	開港記念日を祝し、全館無料で公開したほか、スポーツ土器パズル・富士ゼロックスと連携したレキコラや学芸員による開港期のフロアレクチャーを行った。
チボリ兄弟舎紙芝居	8/18(土)・19（日）	173 人	街頭文化祭と題し、夏季集客事業の一環として、紙芝居の普及を目的に実施した。
街頭紙芝居フェスタ	8/4(土)・5（日）・ 11(土)・12（日）・26 （日）	342 人	街頭紙芝居フェスタと題し、夏季集客事業の一環として、横浜市指定有形民俗文化財の街頭紙芝居（複製）の実演を行った。
遺跡フェスター―古 代・江戸・現代を融 合するそれぞれの 時代―	11/17（土）	3,200 人	〈よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業〉 遺跡公園の総合イベントとして、大塚遺跡は古代、民家園は江戸時代、芝生広場は現代を意識し、公園全体で一日楽しめる様々な企画を実施。
博物館感謝デー	2/2・3(土・日)	5,053 人	常設展示室・企画展示室を無料開放。グランバルーン、Syan、紙芝居、スポーツ土器パズル、ショップセール、れきし工房（勾玉）等を実施した。
ラストサタデープ ログラム	毎月最終土曜日 (11 回) ※台風のため 7/28 は中止		学芸員による「学芸員トーク」、土器パズル、スタンプのほか、4,5,6 月には正面玄関にて火起こし体験を実施した。3 月にはブックカフェ（移動図書館）が来館した。
おもしろいぞ！紙 芝居	毎月最終土曜日 (11 回) ※台風のため 7/28 は中止	788 人	ラストサタデープログラムに併せ、当館が管理している横浜市指定有形民俗文化財の街頭紙芝居を活用し、複製の実演を行った。



遺跡フェスタ



ブックカフェ

(7) 地域や多様な組織との連携（共催事業、協力事業、協賛事業、後援事業等）

項 目	開催日	参加者数	事 業 内 容
シェア・ツヅキ	4/28（土）～ 1/31(木)		タウンセンター地区活性化検討会が実施したインスタグラムを活用したプログラムに参加・協力した。
バクの流域ワンダーランド・学習スタンプラリー（協力）	4/28（土）～ 10/31(水)		鶴見川流域ネットワーキングが主催する、鶴見川流域水マスタープランの普及を目的とした「バクの流域ワンダーランド・学習スタンプラリー」について、スタンプ拠点として協力した。 主催：鶴見川流域ネットワーキング
民俗学講演会（共催）	5/20(日)	80 人	相模民俗学会に共催し、堀内眞氏（山梨県立富士山世界遺産センター）を講師に迎えて「神奈川県の富士信仰」と題した民俗学講演会を開催した。 主催：相模民俗学会
かながわ考古学財団発掘成果発表展示（共催）	7/3(火)～7/8 (日)		博物館2階廊下を利用して、神奈川県内の発掘成果発表展示をかながわ考古学財団と共催して開催した。 主催：かながわ考古学財団
かながわ考古学財団発掘成果発表会（共催）	7/7（土）	165 人	発掘成果発表展示の会期中にかながわ考古学財団と共催して開催した。 主催：かながわ考古学財団
首都圏形成史研究会講演会（共催）	12/1（土）	56 人	首都圏形成史研究会と「首都西郊と軍事空間」をテーマに講演会を開催した。 講師：吉田律人氏（横浜開港資料館） 「大山街道の軍事化と地域社会」 羽田博昭氏（横浜市史資料室） 「横浜と神奈川県県中部の日本軍施設」 主催：首都圏形成史研究会
お城E X P O出張展示・	12/22（土）～		小机城を始めとする横浜中世城郭の写真パネル

出張ワークショップ（協力）	24（月祝）		展とワークショップを開催した。 主催：パシフィコ横浜
つづきアート&ミュージック・ネクスト（共催）	2/17（日）	158 人	〈よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業〉 障がいのある方が「かさなる光 かさなる想い」をテーマに作品公開や様々なパフォーマンス（当館講堂）を行った。 主催：よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業実行委員会
あったか復興支援「わすれない3・11応援しよう都筑から」（共催）	3/9（土）	232 人	エントランス（126 人）と講堂（106 人）を会場に、少年少女の合唱や被災地からの報告会を行った。主催：NPO 法人結ぶ
富士ゼロックス（株）と歴史文化普及啓発に関する協定締結			昨年富士ゼロックス（株）と歴史文化普及啓発に関する協定を締結したが、今年度も企画展における3D見学などを実施した。
都筑区史への連携・協力			平成31年に刊行予定の「図説 都筑の歴史」の編纂事業に財団の他施設と共に協力した。
「むかし体験」訪問歴史授業の実施			金沢区から委託を受け、金沢区内の小学校に保存されている民俗資料を活用した訪問授業事業を実施した。
青葉アートカンファレンス（協力）			「AOBAデジタル・アートミュージアム」の運用のためコンテンツを提供した。主催：青葉区

（８）エントランスホールコンサート等の実施

当館の認知度を高め、新規来館者の開拓を図るため、よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業の一環としてエントランスホールを会場としてコンサート等を開催した。

事業名/開催日	事業実績等
「カジュアルクラシックコンサートin歴博」 9/22（土）	〈よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業〉 演奏者：高橋よしの（チェロ）、太田恵（ピアノ） 来場者数：183 人
「クリスマスジャズライブin歴博」 12/16（日）	〈よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業〉 演奏者：吉田章紘（サクソ）、津嘉山梢（ピアノ）他 来場者数：75 人
「Vamos！フラメンコin歴博」 2/23（土）	〈よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業〉 出演者・演奏者：ダニエル・リコ（カンテ）、長谷川暖（ギター）他 来場者数：154 人

（９）ボランティアの活動支援

項目	事業内容
展示解説ボランティア	・市民ボランティアにより、小中学校団体、及び一般来館者へ、常

	設展示室、大塚・歳勝土遺跡公園、旧長沢家住宅の無料解説ガイドを行った。 当事業は、ガイド研修を通じて登録者の歴史学・考古学に関する自己学習・生涯学習の支援を兼ねている。 ① ガイド登録者数：89人 ②登録期間 2年間（但し、希望者は延長更新可） ③基本ガイド時間 小学校団体 45分間 一 般 60分間 常設展 見学者の要望に応じて実施 小4向吉田新田ガイド ④特別ガイド 6/2 開港記念日定時ガイド 2/2・3 感謝デー定時ガイド
活動支援ボランティア	・学校団体来館時の対応や、ラストサタデープログラム、その他の集客イベントなどの事業を支援してもらうことを目的とした、活動支援ボランティアを実施した。 ①登録者数：54人 ②活動実績 ・4～6月学校団体対応火起こし疑似体験のべ 522人 ・4、5、6月（火起こし体験3日間） 28人 ・ラストサタデープログラム体験イベント（スポーツ土器パズル）毎月実施（7月は台風のため中止）85人 ・開港記念日ワークショップ（土器パズル・レキコラ） 6人 ・土器圧痕調査 36人 ・わんぱくホリデーまが玉 7人 ・都筑区民まつり（浮世絵スタンプ・土器パズル）13人 ・はまりんフェスタ 2人 ・遺跡フェスタ 9人 ・お城 Expo（網代編み） 7人 ・感謝デー2/2（土）13人 ・感謝デー2/3（日）11人 ・センター北まつり 15人 （その他、研修や都市発展記念館・ユーラシア文化館での活動有り）
展示解説ボランティア研修の実施	館外研修会・研修講座等を開催した。

展示解説ボランティア活動実績

項 目		平成30年度		平成29年度		平成28年度	
		遺跡	常設	遺跡	常設	遺跡	常設
活	ガイド実施日数（日）	301	305	309	306	309	306
動	解説回数（回）	1,105	678	1,183	830	1,091	572

実績	1 日 平 均 解 説 回 数 (回)	3.54	2.21	3.75	2.71	3.53	1.87
	参 加 者 数 (人)	23,155	2,120	23,766	2,525	23,019	1,747
	団 体 対 応 (件)	272	22	270	25	275	16
	団 体 の う ち 学 校 数 (校)	220	—	209	—	218	—

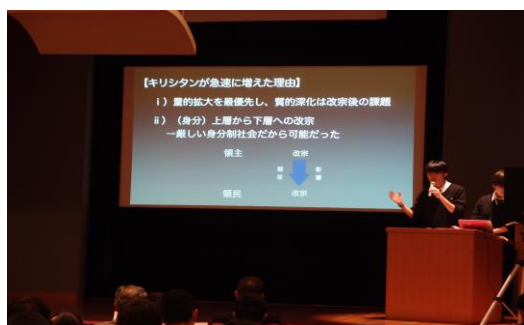
(10) 学校連携事業の実施

「吉田新田」、「三ッ沢貝塚」についての小学校への出前授業と、常設展示室で吉田新田の説明を行いました。また、教職員を対象とした吉田新田の学習会を行いました。

事業名／開催日	事 業 内 容 等
臨時開館	学校団体の来館が多い4・5月の月曜日に臨時開館し（4日間）、混雑緩和と積極的な学校団体誘致を図った。
吉田新田訪問授業 12校 1,101人	矢上小 92人、川上北小 140人、日限山小 78人 大口台小 58人、永野小 86人、すすき野小 28人 都田西小 194人、下田小 137人、永田小 96人、中丸小 82人 大正小 35人、谷本小 75人
文化庁補助金に関連した 学校資料室への訪問授業等 5校 482人	万騎が原小 66人、都田小 98人、都田西小 177人 山下小 80人（於川和小）、東汲沢小 61人
常設展示室 吉田新田説明 6校 497人	荏子田小 78人、嶮山小 57人、横浜三育小 20人 中川小 135人、岡津小 113人、牛久保小 94人
三ッ沢貝塚関連 出張授業 1校 138人	三ッ沢小 138人
土器づくり指導	十日市場小 25人（1/17・1/30・3/7）
教職員対象の吉田新田学習会	授業での学習ポイントを説明 8/3（金）
神奈川県高等学校文化連盟（高文連）第24回社会科研究発表会	11/11 当館の講堂・研修室において「社会科系クラブ集まれ！」とのキャッチコピーで発表大会を開催した。
中学校社会科教育研究会作品展	横浜市中中学生の社会科の研究成果を発表する「中学校社会科教育研究会作品展」を常設展示室で開催した。12/15（土）～1/6（日）併せて、中学校社会科研究発表会を展示初日12/15（土）に開催した。
学校団体の博物館見学申込システムの運用と開発	6学年の校外事業に伴う見学、3、4年生の団体見学・訪問授業に対応した申込システムを運用した。



3年生の民家園見学



神奈川県高等学校総合文化祭

(11) 市民諸団体との協働事業

当館では市民と共に歩む博物館を目指して、博物館に集う市民諸団体と博物館のあり方を検討しつつ、協働事業を実施しました。当館主催の講座OB会である「横浜古文書を読む会」、「横浜縄文土器作りの会」、「横浜古代史料を読む会」、ガイドボランティアのOB会である「横浜さいかちの会」の4団体は、博物館と連携して定期的な活動を行っています。定期的な活動以外には、一般公募の講演会・講座の共同開催なども実施しています。また、博物館の支援、博物館との協働を目的に結成された「横浜歴博もりあげ隊」は、その活動の幅を広げていました。

項 目	事 業 内 容
「横浜古文書を読む会」との協働	毎月2回の講座の開催と、有志による「下読み会」の実施 ・「下読み会」の成果は『博物館紀要』の資料紹介として公開 ・講演会の実施 夏季特別講演会 8/31（金） 当館講堂 講師：福留真紀氏（東京工業大学准教授）「將軍側近水野忠友とその時代」 参加者 152人
「横浜古代史料を読む会」との協働	月1回の『続日本紀』講読講座の開催 ・講演会の実施 10/13（土） 当館講堂 講師：荒井秀規氏（藤沢市役所郷土歴史課学芸員）「高麗若光と坂上石楯―史実と伝承の世界―」 参加者 125人
「横浜縄文土器作りの会」との協働	・実験考古学講座「縄文土器づくり」全5回の技術指導を実施 ・横浜縄文土器づくりの会作品展（12/16～2/3）を開催 ・私たちがつくった縄文土器展を開催
「横浜さいかちの会」との協働	・「日本書紀」を読む講座の開催 ・ガイドボランティア研修（座学・フィールドワーク）の連携実施 ・講演会の実施 5/26（土） 当館研修室 講師：井上攻（当館副館長）「村絵図が語る江戸時代」 参加者 40人 ・講座の実施 さいかち中世史講座（全5回） 当館講堂 10/27「室町幕府における曾我氏とその動向」講師：木下聡氏 11/10「戦国期の寺社参詣」講師：阿諏訪青美（当館学芸員） 11/17「17世紀の浦賀貿易」講師：小川雄氏 11/18「織田権力の関東仕置」柴裕之氏 11/24「高野山信仰」丸島和洋氏 参加者 合計 363人
「横浜歴博もりあげ隊」との協働	・開港記念日におけるワークショップの協力 ・あじろ編みワークショップの実施（夏期2回）

	・感謝デーでのクイズラリー、あじろ編みワークショップの実施 ・講演会の実施 7/8（日） 当館講堂・研修室 講師：鈴木靖民氏（当館館長）「シルクロードと古代の日本」 参加者 220 人 12/8（日） 当館講堂 講師：仁藤智子（国士舘大学准教授）「転換期の皇位継承」 参加者 155 名
--	--

(12) 学校団体利用の推移

項 目	平成30年度	平成29年度	平成28年度
学 校 数 (校)	361	362	364

うち小・中学校利用数

項 目	平成30年度	平成29年度	平成28年度
学校数 (校)	330	331	347
児童・生徒数 (人)	28,603	28,855	30,966

(13) 実習・研修の受け入れ

項 目	事 業 内 容
博物館館務実習などの受け入れ	博物館学芸員資格の取得を目指す「博物館実習」受講生を受け入れ、指導を行った。 9名 9日間（6～11月）
社会研修の受け入れ	生徒・学生・社会人の職場体験・研修等を受け入れた。（延人数） 大学生 社会体験実習（学習院大学） 3名 6/2、7/15、8/4 インターンシップ（フェリス学院大学）1名 10日間 高校生 県立高校インターンシップ 5名 8/1（水）～8/4（土） 中学生職場体験 玉川学園中学部（町田市）2名（のべ4名）7/26・27（木・金） 日吉台中学校（港北区）4名（のべ8名）7/4・5（水・木）、みたけ台中学校（青葉区）4名（のべ8名）11/8・9（木・金）、川和中学校（都筑区）3名（のべ6名）9/12・13（水・木）、菅田中学校（神奈川区）2名（のべ4名）9/20・21（木・金）、横浜国立大学附属中学校（磯子区）4名（のべ8名）10/4・5（木・金）、森村学園中等部（緑区）3名（のべ6名）12/14・15（金・土）、すすき野中学校（青葉区）2名（のべ4名）11/27・28（火・水）、矢向中学校（鶴見区）2名（のべ4名）12/6・7（木・金）

(14) 広報広聴

項 目	事 業 内 容
広報	市営地下鉄 5 駅構内の広報案内看板による広報 博物館近隣の広報案内看板による広報 インターネットによる広報 都筑区民まつり・センター北まつりへの出店参加による広報 ソーシャルメディアネットワークによる情報発信 全国博物館施設、市内公共施設、学校に向けた広報 マスコミ各社への情報提供 センター北駅 1 番出口広告掲示板（8 ヶ所）による広報 市広報誌による広報 新聞各社への有料広告掲出
地域文化財情報の発信	・バクの流域ワンダーランド・学習スタンプラリー※ ・かながわ考古学財団発掘成果発表展示・発表会※ ・都筑・遺跡公園・民家園アート月間【詳細は（7）参照】 ・関家住宅の公開、関連マップの作成 ・かやぶきプロジェクトの実施
市民ニーズの把握	企画展など当館が企画した行事でアンケートを実施した。
催事申込システムの運用	ワークショップ「れきし工房」や各種講座・講演会、ガイドボランティアの募集等にインターネットを利用した催事申込システムを運用した。

(15) 出版

項 目	事 業 内 容
リーフレット類作成	歴史博物館案内パンフレット 歴史博物館案内児童用パンフレット 歴史博物館催し物案内（年 2 回） 通史展示解説シート 大塚歳勝土遺跡公園パンフレット
出版物発行	横浜市歴史博物館ニュースNo.45 8, 0 0 0 部作成 No.46 8, 0 0 0 部作成 横浜市歴史博物館資料目録 第 27 集 7 0 0 部作成 横浜市歴史博物館紀要 第 23 号 8 0 0 部作成 横浜市歴史博物館調査研究報告 第 15 号 7 0 0 部作成

5 よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業

公開承認施設である当館を中核館として、「よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業実行委員会」を組織し、文化庁からの補助金を受け、以下の事業を実施した。

項 目	事 業 内 容
-----	---------

①地域文化遺産交流拠点事業	新たな地域文化遺産交流拠点として以下の整備を行った（継続中も含む） ・国指定重要文化財建造物関家住宅・横浜市認定歴史的建造物中山恒三郎家店蔵・富岡小学校郷土資料室・中和田小学校郷土資料室・日下小学校郷土資料館・東汲沢小学校郷土資料室・永田小学校永田村すけごうルーム、お城 EXPO「横浜の中世城郭」ブース・横浜市城郷地区センター展示コーナーのプロデュース。
②観光拠点化事業	中核館および大塚・歳勝土遺跡公園や都筑民家園を舞台としたユニークベニューイベント「日本を知ろう」として・菊節句・お月見ライブ・乙女文楽、クラシック・ジャズ・フラメンコの各コンサートを開催。オリパラを見据えたプロスポーツチームと協働したパブリックビューイングの開催。マルシェ・中学生アート・個別支援級支援・文化交流シンポジウムの開催等を通じたイベント企画・運営団体の育成。以上を予定通り実施した。
③普及啓発事業	「寄木細工」に関する個人コレクションを活用した展覧会の開催およびリユースデジタル機器類を活用した AR 実験等を予定通り実施した。
④広報・情報発信事業	平成 30 年度は事業実施を見送りのため、平成 31 年度以降の実施に向けた打合せ等のみ実施した。
総括	平成 30 年度の本事業においては、定量的な成果としては上の事業実績の通り、地域文化遺産交流拠点やそれに付随する文化遺産の整備をおこなったこと、数々のイベントを通じた新たな集客を実施できたことがあげられる。 加えて本事業が目的とする文化遺産にかかわる人材・団体の育成面においても新たに 2 団体の旗揚げを支援し、事業イメージ図に示した面的な広がりとしても歴史・文化・アート・学校・公共機関といった当初計画した団体以外にも、あらたにプロスポーツチームとの「つながり」を構築することができた。「素晴らしい講堂で、ドキドキする接戦を皆でブースト出来ました。」「楽しませて頂きました！試合後、久しぶり展示場も見れて、昔を懐かしめました！ありがとうございます。又お願いします！」というように博物館自体や施設の魅力の再発見にもつながっている。文化庁ウェブサイトにて平成 30 年度事業例として掲載されたこともあり、国立博物館や県立博物館等からの視察や問合せを受けており、本事業が対象とする、文化財としての位置付けがまだ定まっていない、あるいは文化財的価値が高くても観光資源としては劣るもの文化遺産に関する興味関心は高まっている。 一方で、定性的な観点として社会的な認知度を計測する評価軸となるインターネット上の検索結果数については、本事業のウエ

	ブサイト開設を含む広報・情報発信事業が平成 31 年度に先送りとなったため、数値の把握が難しいものの、個別のイベントや団体が発信する SNS での一般利用者の反応は良いものが見られる。 平成 30 年度は 7 月からの事業開始となり、予定通りの事業進行が難しい局面も見られたが、平成 31 年度以降の事業の継続により文化遺産に対する既成の概念や価値基準を変化させることをはじめとする当初に見込んだ以上の成果が期待される。
--	--

6 情報事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号②）

インターネット等を利用して、文化財・歴史資料及び展示等に関する情報を提供するために、データの入力等を行い、文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項 目	事 業 内 容
収蔵資料等データ入力	図書文献資料等のデータ入力及びインターネット公開を行った。 データ入力件数 2, 6 3 8 件
映像資料の公開	スタディサロンで映像ビデオを公開した。
文化財情報システムの運用・保守	インターネット等による文化財情報の管理・発信やグループウェアに関わる機器類の保守を行った。
ホームページを利用した博物館情報の発信と市民ニーズの把握	博物館のホームページにより、博物館の展示・催し物・刊行物の広報や、収蔵資料・図書文献資料・市内文化財等の紹介を行った。 アクセス（セッション）数 194, 208 件
ツイッターを利用した博物館の情報発信	ツイッターを利用して博物館の展示や催し物の紹介、また体験学習、講座・講演会など、様々な情報を発信した。

7 歴史博物館施設維持事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号③）

歴史博物館及び野外施設の維持管理・運営を行いました。

（1）歴史博物館等の維持管理

省エネルギーとメンテナンスフリー化を目的に、常設展示室スポットライトの LED 化を実施しました。

管理対象施設等	事業内容
歴史博物館	施設の保守管理、補修・修繕 スタディサロン・歴史劇場の維持管理、講堂、研修室の貸出 主な修繕等：常設展示室スポットライト LED 化・屋上支柱防水工事・地下機械室止水工事 他 平成 31 年度施設改修工事基本設計・実施設計
歴史博物館野外施設	国指定史跡「大塚・ ^{さいかちど} 歳勝土遺跡」の維持管理

（2）講堂・研修室利用の推移

項 目		平成 3 0 年度	平成 2 9 年度	平成 2 8 年度
講 堂	利 用 者 数 (人)	2 0 , 9 8 0	2 4 , 7 2 6	2 3 , 6 0 4

研修室	利 用 件 数 (件)	2 1 2	2 3 0	1 9 5
	うち有料貸出件数 (件)	4 5	6 2	5 7
	利 用 者 数 (人)	6, 5 9 8	5, 6 3 6	8, 8 3 6
	利 用 件 数 (件)	2 3 1	2 1 4	2 8 4
	うち有料貸出件数 (件)	1 3 3	1 1 5	1 5 9

(3) 歴史博物館野外施設入場者の推移

項 目		平成30年度	平成29年度	平成28年度
歴 史 博 物 館 野 外 施 設 (人)		5 7, 5 8 1	5 7, 7 3 2	6 2, 1 5 5
内 訳	大 塚 遺 跡 (人)	5 5, 0 8 1	5 5, 4 0 2	5 8, 8 2 0
	工 房 (人)	2, 5 0 0	2, 3 3 0	3, 3 3 5

8 歴史博物館収益事業（定款第4条第1項第2号）

(1) ミュージアムショップ

- ① 当日申込型れきし工房の実施に合わせ、オリジナルキットの商品を拡充し、土器の野焼きで作成した土製品を販売するなど事業と関連させた商品開発を行った。オリジナルとなる火打石、絵葉書、クリアファイル、企画展図録等のほか、各種商品を販売した。
- ② 企画展・イベントにあわせた商品をそろえ、感謝デーではセールを実施した。

(2) 駐車場

歴史博物館の来館者用駐車場を運営した。

(3) 自動販売機（4台）の設置

施設利用者の利便を図るため、自動販売機を設置した。

<各事業の推移>

項 目	平成30年度	平成29年度	平成28年度
ミュージアムショップ売上（千円）	9, 7 8 6	8, 3 4 8	8, 9 5 7
駐車場利用台数（台）	5, 4 7 3	5, 7 0 6	5, 8 9 6
駐車場料金収入（千円）	2, 2 7 0	2, 3 4 4	2, 4 7 4
自動販売機手数料収入（千円）	3 2 8	3 2 2	3 1 3

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	資料購入・寄贈による資料収集を行うとともに、マイクロフィルム制作などによる収集活動を着実にいった。収集資料の整理・保管・データ入力を進めた。また、画像資料の有料貸出も継続していった。	A
調査研究事業	予定どおり実施した。基礎資料に関する調査研	A

	究、テーマ別の調査研究、市民協働の調査研究などを実施し、その成果は報告書として刊行・公開し、企画展にも活用した。	
常設展事業	ミニ展示の充実や常設展示解説ボランティア活動の活潑化を図ったが、入場者数は、前年度を下回った。	B
企画展事業	当初計画した様々な事業は予定通り実施した。企画展の入場者は前年度を下回ったが、話題性のある企画を提供できた。	B
普及事業	今年度は従来の展示中心だった体験学習室を、ものづくりが体験できるワークショップスペースとしてリニューアルした。市民協働として、ボランティアが活動の幅を広げ、集客イベント等で活躍した。また市民団体との協働事業を各段に増やし、館の活動の幅を広げた。	A
よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業	本事業は前年度まで実施していた「博物館デビュー支援事業」を拡大させる形で本年度より開始した。文化庁の補助金を得て、専門のチームを編成して地域の文化遺産やそれを活用した交流拠点の整備を実施した。観光拠点化事業では多様なイベントを通じてその担い手となる団体を育成し、今後の博物館や文化遺産の活用の幅を広げるための裾野を切り開いた。	S
情報事業	今年度は SNS の積極的な活用を計画し、開港資料館と連携した企画展「戊辰の横浜」において専用の Twitter アカウントを開設し、歴史博物館・開港資料館の展示担当者が見所などを紹介した。展覧会情報など静的な情報の HP に対して、リアルタイムな情報発信が行える SNS の強みを活かした活動をおこなった。	A
施設維持事業	経年劣化が進んでいる博物館施設、遺跡公園の施設等の維持管理を適切に実施した。今年度は来年度に実施される大型改修の準備を行った。	A
収益事業	本年度から開始した当日申し込み型れきし工房に合わせオリジナルキットを拡充、また、土器の野焼きで作成した土製品を販売するなど事業と関連した商品化を試みた。ミュージアムショップと駐車場の売上げは前年度を上回った。	A

3 開港資料館事業

開港資料館では主要業務である展示・閲覧・講座・講演会・出版に加えて、昨年度は市役所や各種団体との連携事業を積極的におこなうことによって、地域の賑わいの創出や小学校との連携の強化を推し進めました。教育委員会とは教員の初任者研修やアイカレッジに講師を派遣し、横浜の歴史について講義しました。また、神奈川台場の保存運動をおこなってきた神奈川台場地域活性化推進協会の依頼で、同会が発行した『神奈川台場物語』の監修・執筆をおこない、神奈川区・西区・中区の市立小学校の6年生全員に1冊配布しました。さらに、馬車道や中華街など地域の商店街が実施するセントラルフェスティバル Y159 を都発・ユ一文とともに共催し、ウォークラリーのスタンプポイントとしてイベントに参加しました。これに加えて横浜商工会議所や横浜港振興協会の機関誌に依頼によって原稿を寄稿しました。

資料整理については一昨年度に歴博と共同で調査した都筑区の中山家の古記録の整理を進め、今後、同家資料を題材にした企画展示を開催するべく作業を進めています。学会との連携では、当財団は全国的な歴史研究学会である地方史研究協議会と共催して第69回地方史研究協議会大会を横浜市開港記念会館で開催しましたが、その際、横浜開港資料館が事務局として活動し内外に当館の存在をアピールしました。

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

江戸時代後期から明治・大正にかけての横浜の歴史とその関連資料を収集し、収集資料を良好な状態で保存するために資料の保管・修繕を行いました。また、閲覧室での資料公開・コピーサービスにより、資料や研究成果の普及を行いました。

（1）資料の収集・管理・公開（H30.4～H31.3）

項 目	点 数	事 業 内 容
資料の寄贈・寄託	寄贈2件 25点	収集資料： 中華街聘珍楼関係資料・軍艦榛名の写真
資料の購入	40件 152点	収集資料： 鶴見区本覚寺文書ほか
古文書のマイクロ化 ほか	4件	主な複製（マイクロ撮影）資料：ブルームコレクションの書籍ほか
資料の分類・整理	古文書など 約800点	中山家を中心に収集した歴史資料を保存・公開するため、資料群ごとに分類・整理した。
閲覧室における資料 の公開とコピーサー ビス	閲覧室利用 2,040人 コピー枚数 23,935枚	日本語・外国語新聞複製、図書等の開架資料の公開と、文献・古文書等の閉架資料の出納・公開、コピーサービスを行った。
写真資料・画像資料の 撮影	撮影件数（16件） 古写真や古記録など	企画展や閲覧公開に供する資料及び収蔵資料の撮影を行った。
複製フィルム等の提 供	提供件数511件 1,608点	市民や企業、他の博物館や公共機関、出版社などへの写真資料の提供を行った。
実物資料の貸出	貸出件数8件	他の博物館（神奈川県立金沢文庫・品川区立品川歴史館ほか）へ実物資料の貸出を行った。

(2) 資料収集内訳 (H30.4～H31.3)

区 分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
行政資料 (点)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	1,851 (1,851)
政府資料 (点)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	16,137 (16,137)
海外資料 (点)	— (5)	2 (2)	— (1,008)	— (—)	2 (1,015)	15,235 (15,231)
文書・記録 (点)	6 (—)	— (8)	24 (806)	— (—)	30 (814)	84,182 (84,152)
新聞資料 (点)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	9,946 (9,946)
絵画・写真等 (点)	— (—)	— (5)	1 (8)	— (2)	1 (15)	33,623 (33,622)
コレクション (点)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	51,408 (51,408)
文献資料 (点)	146 (116)	— (—)	— (—)	— (—)	146 (116)	58,098 (57,952)
合 計	152 (121)	2 (15)	25 (1,822)	— (2)	179 (1,960)	270,594 (270,415)

※ () 内は、前年度点数。

(3) 複製フィルム等の提供実績

項 目	平成30年度	平成29年度	平成28年度
出版社 (一般書・教科書・雑誌)、放送・テレビ会社、官公庁、横浜市及び横浜市関連機関への提供	511件	589件	616件

(4) 閲覧・資料相談・複写サービス利用状況

項 目	平成30年度	平成29年度	平成28年度
閲覧室利用者数 (人)	2,040	2,579	2,646
複写申込件数 (件)	1,080	1,240	1,385
複写枚数 (枚)	23,935	25,860	36,014
レファレンス件数 (件)	2,251	2,815	2,803

(5) 資料の保管

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
中性紙資料保存封筒作成	劣化する酸性紙保存封筒からの中性紙保存封筒への入れ替え
環境検査	5回/年 実施

(6) 資料保管施設の管理

保管施設	保 管 資 料
開港資料館収蔵庫 (310 m ²)	文書記録、画像資料、個人文庫、文献等の収蔵と管理を行った。
大黒埠頭倉庫、シルクセンター他	器物資料、文献資料などの収蔵と管理を行った。

2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

江戸時代後期から明治・大正にかけての横浜の歴史とその関連資料について調査研究を館外の研究者と協力しておこないました。また、昨年に引き続き、開港資料館・都市発展記念館・市史資料室の3施設合同で、「戦中・戦後期の都市横浜に関する連携研究事業」を行いました。

（1）基礎的調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
開国・開港期の歴史	① ブレンワルド日記の翻訳作業 ② 都筑区中山家資料の活用計画立案 ③ 中横浜港振興協会・横浜商工会議所との連携事業 ④ 横浜市教職員育成課などとの連携事業の実施
横浜近代欧米関係史	① 幕末期の日英関係資料を分析し、当館『紀要第36号』に史料紹介執筆（「幕末の横浜イギリス駐屯軍士官の書簡（二）」） ② 特別資料コーナー展「100年前の駐横浜ベルギー総領事」担当、案内（4/27 ベルギー大使） ③ 「開港のひろば」「中区広報—なか区歴史の散歩道」等執筆 ④ 12/22、3/30 海外関係資料の関係者へのオーラルヒストリー実施 ⑤ ドン・ブラウン文庫目録のOPAC公開に向けたデータ整備 ⑥ 外部機関（東大史料編纂所）とのイギリス外交文書のデータ検索閲覧システム連携事業（継続） ⑦ 受贈資料（C・バスタン旧蔵資料、アベイ家資料）関係者への対応（6/23 ベルギー・ルーベン大学カルボネ教授、1/4 米カリフォルニア州・アベイ一家） ⑧ ブレンワルド研究会参加 ⑨ 学芸員実習担当 ⑩ 関係団体との連携—「ラグビー発祥地 横浜」碑建立（2019年7月予定）計画に碑文監修で協力（対神奈川県ラグビーフットボール協会、市民局ラグビーワールドカップ2019担当課）、地元TV（YOUTV）の「横浜ミストリー」（チョコレートと横浜）取材対応 ⑪ 7/3 ドイツ学園生徒、10/24 国学院大学留学生案内 ⑫ 神奈川県博物館協会の幹事（人文部会、協会報編集担当）
横浜幕末維新期の社会・生活史	① 第2回企画展示「戊辰の横浜—開港都市の明治元年」企画・実施（歴史博物館との連携事業） ② 2019年度企画展「開港前後の横浜」準備 ③ 幕末維新期の横浜の社会情勢について分析し、『横浜開港資料館紀要』36号に「慶応四年佐賀藩の横浜駐屯」として報告。 ④ 昭和戦中期の横浜の都市生活について分析し、『横浜都市発展記念館紀要』15号に「昭和戦中期横浜の都市生活誌（下）」として、『横浜市史資料室紀要』9号に「昭和前期都市横浜の世相と家族」として報告（都市発展記念館との連携事業）。

	⑤ 『開港のひろば』141号、142号執筆。 ⑥ 委託研究会「幕末期の外交と海運に関する研究会」事務局担当 ⑦ 館蔵資料（関家文書・獅子ヶ谷村本覚寺文書）の整理。 ⑧ 学芸員実習担当 ⑨ 横浜商科大学講座での幕末維新史関係講義（「戊辰の横浜」）担当 ⑩ 市史資料室「家族の記録から見る横浜の近現代史」（8月25日）にて「昭和戦前・戦中期、横浜の都市生活誌」を報告。 ⑪ 埋文センター・中央図書館講演会「解き明かせ！横浜のお台場」（12月9日）にて「神奈川台場とその時代」を報告。 ⑫ 横浜郷土史団体連絡協議会事務局担当。研修会開催、ニュース・会報編集・発行など。 ⑬ ミニ展示「築地居留地、開かれる」展示担当 ⑭ 環境調査実施・担当
横浜近世・近代社会経済史	① 第4回企画展示「浮世絵でめぐる横浜の名所」展の企画・実施 ② 次年度第1回展示「カメラが撮らえた横浜 - 古写真にみる開港場とその周辺 -」の準備 ③ ミニ展示第93回「瓦版にみる安政6年の横浜開港」・第94回「近代金沢における霊場巡拝」・第98回「准秩父観音霊場と准西国稲毛観音霊場」の実施 ④ 「開港のひろば」140・141・143号の執筆 ⑤ 「中区歴史の散歩道」執筆 ⑥ 横浜商工会議所会報『YOKOHAMA 商工季報』7月号・10月号・1月号の「絵で振り返る横濱」執筆 ⑦ 横浜港振興協会広報誌『よこはま港』133号・134号に「吉田新田の今と昔」（前編・後編）を執筆 ⑧ 学芸員実習の全体総括・担当 ⑨ 横浜郷土史団体連絡協議会（郷土史協）事務局担当 ⑩ 郷土史協第13回大会（4月21日）の講演会「16～19世紀における横浜市域の地域構造」の講師 ⑪ 6月2日開港・開館記念日イベント「吉田新田と入海の地形ツアー」担当 ⑫ 神奈川県歴史資料取扱機関連絡協議会（神史協）担当 ⑬ 神奈川県図書館協会（神図協）担当 ⑭ 地方史研究協議会第69回大会（神奈川）実行委員会事務局担当
歴史情報の集積と研究	① 雑誌・新聞の整理、インターネット公開システム「情報館」での公開 ② 資料調査（宮田吉秀家） ③ 資料寄贈のための調査（岸秀雄家） ④ 資料寄贈希望者対応（高橋逸美氏・小黒恵子氏・小泉初恵氏） ⑤ 開港のひろば」執筆（141号・143号） ⑥ ミニ展示第97回「丸善の初荷風景」準備・開催 ⑦ 学芸員実習担当

	⑧ 複製資料利用担当 ⑨ 複製資料提供及び特別協力（横浜みなと博物館展示） ⑩ 資料貸出（練馬区立石神井公園ふるさと文化館特別展・中央区立郷土天文館特別展） ⑪ 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会担当 ⑫ 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会関東部会担当
横浜近現代政治社会史	①都市発展記念館及び市史資料室との連携事業の実施 ②横浜郷土史団体連絡協議会事務局担当 ③神奈川県高等学校文化連盟社会科専門部との連携事業の実施 ④横浜市立大学インターンシップ対応 ⑤国文学研究資料館アーカイブカレッジ対応 ⑥学芸員実習担当 ⑦子どもアドベンチャー実施担当 ⑧『開港のひろば』執筆（140・142・143号） ⑨「中区歴史の散歩道」執筆（251号） ⑩「近代陸軍の創設と横浜」（『横浜開港資料館紀要』第36号、2019年3月）の原稿執筆 ⑪ミニ展示「関東大震災95周年 災害情報の伝播と通信社」準備・開催 ⑫横浜近現代史研究会委託事務担当 ⑬首都圏形成史研究会事務局担当 ⑭新収蔵資料の収集・整理・公開 ⑮企画展示「明治の戦争と横浜」の企画および実施 ⑯企画展示関連事業シンポジウム「軍隊と横浜」（1/12）、関連講座「日露講和と横浜の騒擾」（12/8）の企画および実施 ⑰企画展示「横浜の消防」の準備 ⑱中山恒三郎家資料調査および整理、研究会等の実施 ⑲地方史研究協議会第69回大会（神奈川）実行委員会事務局担当 ⑳外部保管倉庫管理担当 ㉑マイクロ等複製資料担当 ㉒研究助成事業「近代日本の都市移住者と同郷者集団の形成」の準備 ㉓横浜郷土史団体連絡協議会第51回研修会（講演会）「近代陸軍の創設と横浜」（11/21）、横浜市中央図書館レファレンスフォローアップ研修「写真資料の分析と活用方法」（1/24）、神奈川県博物館協会講演会「集める、受け継ぐ、守る—資料と向き合う学芸員の仕事—」（3/24）等の講師 ㉔館蔵資料の貸出対応（横浜みなと博物館）

（2）調査研究の委託

項 目	目的・内容	今年度の成果目標
横浜近現代史分野	横浜近現代史の総合研究	①海外関係資料の調査研究・整理・翻刻

の調査研究	(3 / 3 年次)	・ オーラルヒストリー調査 ②中山恒三郎家資料の整理 ③横浜の活字文化に関する研究 ④幕末期の外交と海運に関する研究 ⑤オーラルヒストリー調査の実施、横浜華僑教育関係史料の所在調査
-------	------------	--

(3) 都発・市史との昭和期の横浜の歴史に関する共同プロジェクト

近現代歴史資料課に属する開港・都発・市史の3施設が合同で開催する会合・研究会では昭和期の横浜の歴史に関する資料の調査や分析、これまでの研究史のまとめなどをおこないました。また、どのように当該資料を活用して展示・講演会などをおこなっていくのかを検討しました。さらに、3つの施設が所蔵する地図資料の統一的なデータベース化にも取り組みました。この成果は順次、開港・都発・市史の3施設で開催する企画展などで公開します。また、都市発展記念館が所蔵する昭和期の日記の分析をおこないました。

(4) 研究紀要の発行

出版書籍名	作成部数	頒布価額	事業内容
横浜開港資料館 紀要 第36号	1,250部	1,500円 ＋税	当館専門職員による資料の調査研究、整理等の成果をまとめた。 ・ 慶応四年佐賀藩の横浜駐屯 ・ 近代陸軍の創設と横浜 - 軍事的空間の変化を中心に - ・ <史料紹介> 幕末の横浜イギリス駐屯軍士官の書簡(二) 第二〇連隊第二大隊スミス中尉の書簡(一八六五年一月～一〇月)

3 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）

常設展示室において、資料・展示ケースなどの保守点検を実施し、円滑な展示室運営を行いました。

(1) 常設展示室観覧者の推移（目標数 61,000 人）

	有料入館者（人）				無料入館者（人）	合計（人）	前年比	開館日数	1日平均入館者(人)
	一般	小中	閲覧室	計					
30年度	26,035	4,729	823	31,587	23,714	55,301	82.1%	303日	182
29年度	31,304	6,110	941	38,355	28,995	67,350	123.5%	303日	222
28年度	25,930	6,041	1,133	33,104	21,395	54,499	95.4%	304日	179

(2) 新収蔵資料や新発見資料を紹介する「ミニ展示」の設置

常設展示室の一角や旧館1階ホールを活用して、新収蔵資料や新発見資料の紹介コーナーを設けたり、ミニパネル展示をおこなったりして、調査研究の成果をいち早く紹介した。

項 目	内 容 ・ 成 果
ミニ展示	第 92 回 3/1～5/6 「100 年前の駐横浜ベルギー総領事」 第 93 回 5/8～6/30 「瓦版にみる安政 6 年の横浜開港」 第 94 回 7/1～8/31 「近代金沢における霊場巡拝」 第 95 回 9/1～10/28 「災害情報の伝播と通信社」 第 96 回 11/1～12/27 「築地居留地開かれる」 第 97 回 1/4～2/28 「丸善の初荷風景」 第 98 回 3/1～4/30 「准秩父観音霊場と准西国稻毛観音霊場」
開港（開館）記念日に 関する事業	ミュージアムショップセールを実施し、グッズ販売を促進した。 開港記念日に「斉藤副館長とめぐる！吉田新田と入海の地形ツアー」を開催した。

（３）旧館ホール・中庭展示

無料展示スペースである旧館ホール・中庭展示の見学者数の集計結果

旧館ホール見学者：58,534 人

中庭展示見学者：86,355 人

４ 企画普及事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号②）

江戸時代後期から明治・大正にかけての横浜の歴史とその関連資料の研究成果を企画展開催等で発表しました。また、横浜郷土史団体連絡協議会を中心に市民との協働を積極的に進め、研修会の実施等を行いました。また、年間で 10 日間、開館時間を午後 7 時まで延長し、利用者の便宜をはかりました。

（１）企画展の実施

企画展名/開催期間	入館者数	目的・意図 及び 内容・成果
企画展示 「横浜と銭湯－“ゆ”をめぐる人びと－」 H30. 1. 31(水)～H30. 4. 22(日) 会期 71 日 (年度中会期 19 日)	3,325 人 *会期中の 総入館者数 13,006 人 (目標数 11,000 人) 1 日あたり 183 人	横浜市歴史博物館との共催企画。本展示では、銭湯や温泉をキーワードに、“ゆ”をめぐる人びとの動きに焦点を当てつつ、近代横浜の都市形成史をたどった。市民生活と密接に関わっていた銭湯の存在を通じて、幕末維新期から第 2 次世界大戦後に至る横浜の近現代史を描いた。新聞メディアを中心に反響も大きく、関連事業の参加者からも好評を得た。
企画展示 「金属活字と明治の横浜－小宮山博史コレクションを中心に－」 H30. 4. 27(金)～H30. 7. 16(月・祝) 会期 70 日	16,065 人 (目標数 18,556 人) 1 日あたり 220 人	当館の企画展示で始めて活字と活字史を取りあげた。馴染のないテーマではあったが、横浜における活字の伝来と普及の歴史を伝えることができた。またデザイナー、書体デザイナーの注目を得ることが出来、初めての来館者も多く、新たな来館者層を開拓することができた。

企画展示 「戊辰の横浜 開港都市の明治元年」 H30. 7. 21(土)～H29. 10. 28(日) 会期 86 日	14,726 人 (目標数 16,000 人) 1 日あたり 171 人	1868 年(明治元年)から 150 年を迎えたことを記念し、開港都市横浜に視座を据えて明治元年という激動の一年をふりかえった。歴史博物館との共同開催。新出資料も交えながら、戦地ではなかった横浜と戊辰戦争の意外な関係を明らかにした。
企画展示 「明治の戦争と横浜―伝わる情報、支える地域―」 H30. 11. 3(土)～H31. 1. 27(日) 会期 68 日	11,435 人 (目標数 10,300 人) 1 日あたり 168 人	当館が収集してきた海外新聞や浮世絵、絵葉書など戦争を伝えるメディアに注目しつつ、横浜という地域の視点から明治期の戦争を描いた。近代陸軍創設当初の部隊編制表や、西南戦争に従軍した市内出身兵士の軍人手帳、旧家で発掘された戦時雑誌など展示し、見学者に戦争と横浜との関係を提示した。
企画展示 「浮世絵でめぐる横浜の名所」 H31. 2. 2(土)～H31. 4. 21(日) 会期 68 日 (年度中会期 50 日)	8,442 人 *会期中の 総入館者数 11,672 人 (目標数 11,800 人) 1 日あたり 172 人	2019 年が横浜開港 160 周年にあたることを記念して、日本人の絵師によって描かれた浮世絵を題材に、開港により新たな「名所」となった「開港場・横浜」の風景について、名所を見る視線に注目しつつ、紹介した。

(2) 講座の開催

講座名称/開催日	参加者数	事業内容
第 1 回企画展示 展示関連講座 「活版印刷と横浜」 展示解説	講座合計 200 名 展示解説 合計 65 名	5/26(土)「活字と活字見本帳が語るもの」 会場：横浜開港資料館講堂 講師：内田明 50 名 6/9(土)「印刷史のなかの美華書館―日本とのかかわり」 会場：横浜開港資料館講堂 講師：宮坂弥代生 53 名 6/23(土)「日本活版印刷史の夜明け―上海のヘボンと吟香」 会場：横浜開港資料館講堂 講師：小宮山博史 97 名 5/12(土) 展示解説① 23 名 6/29(金) 展示解説②(夜間) 20 名 7/8(日) 展示解説③ 22 名
第 2 回企画展示 講演会 展示解説 講座	合計 493 名	9/2(日) 講演会 保谷徹「戊辰戦争と横浜開港場」185 名 8/24(金) 展示解説①(夜間) 13 名 9/22(土) 展示解説② 43 名 10/20(土) 展示解説③ 31 名

		9/15（土）講座 村和明「戊辰戦争と三井」79名 10/6（土）講座 吉崎雅規「戊辰の横浜 開港都市の明治元年」75名 10/13（土） 神谷大介「戊辰戦争期の海軍と港湾―横浜・横須賀・浦賀―」67名
第3回企画展示 シンポジウム 講座 展示解説	展示解説 合計 62名 講座合計 47名	11/3（土）展示解説① 21名 11/30（金）展示解説②（夜間）8名 12/21（金）展示解説③（夜間）9名 1/19（土）展示解説④ 24名 11/24（土）講座「日清戦争と横浜華僑社会」 14名 会場：横浜開港資料館講堂 講師：伊藤泉美 12/8（土）講座「日露講和と横浜の騒擾」 33名 会場：横浜開港資料館講堂 講師：吉田律人 1/12（土）展示記念シンポジウム「軍隊と横浜」 61名 基調講演：荒川章二 関連報告：中村崇高、吉田律人 コメント：上山和雄 会場：横浜開港資料館講堂
第4回企画展示 関連講座 展示説明 展示案内	講座合計 107名 展示説明 合計 69名 展示案内 合計 88名	2/16（土）講座「神奈川宿台町からの眺望」38名 3/2（土）講座「開港場横浜と横浜双六」34名 3/16（土）講座「吉田橋と鉄道」35名 3/9（土）展示説明① 18名 3/21（木・祝）展示説明② 10名 4/6（土）展示説明③ 41名 いずれも、会場：横浜開港資料館講堂 講師：斉藤 司 2/11（月・祝）展示案内① 34名 2/22（金）展示案内②（夜間）8名 3/29（金）展示案内③（夜間）6名 4/20（土）展示案内④ 40名



第2回企画展示関連講座



第3回企画展示シンポジウム



第4回企画展示関連講座

(3) 各種出版物の作成・編集

出版書籍名	作成部数	頒布価額	事業内容
「金属活字と明治の横浜 資料（原寸大）」	1200 部	500 円+税	A4 判、16 頁。横浜開港資料館編
「戊辰の横浜」図録	2500 部	1500 円 + 税	A4 判、112 頁。横浜市歴史博物館・横浜開港資料館編
「明治の戦争と横浜」図録	1500 部	900 円+税	A4 判、48 頁。横浜開港資料館編
「浮世絵でめぐる横浜の名所」関連図書『貞秀「神奈川横浜二十八景之内」』	1500 部	400 円+税	A4 判、16 頁。横浜開港資料館編

(4) 市民などとの協働事業の実施

横浜の郷土史に関心の深い市民団体相互の交流促進及び当財団と各団体との協働事業を推進することを目的に設立した横浜郷土史団体連絡協議会との共催事業をおこないました（平成 30 年度末現在、加盟 46 団体）。また、横浜セントラルタウンフェスティバル Y159 へ参加し、当日、無料開館したほかイベントをおこないました。さらに、横浜商工会議所や横浜港振興協会の機関誌に原稿執筆したほか全国的な歴史研究学会である地方史研究協議会と当財団の共催で、第 69 回地方史研究協議会大会(神奈川大会)を横浜開港資料館が中心となって開催しました。

項目	事業内容等
横浜郷土史団体連絡協議会との共催事業	① 総会・研修会・記念講演会の実施 大会 4/21(土) 研修会 第 49 回 6/22 (金) 第 50 回 8/10 (金) 第 51 回 11/21 (水) 第 52 回 3/8(金) 全 4 回 参加者 計 133 名 記念講演会「16 世紀～19 世紀における横浜市域の地域構造」4/21 (土) ② 横浜郷土史団体連絡協議会 News の発行 49 号～52 号 ④ 特別講座「崩壊する徳川の由緒」を実施 2/22 (金) 参加者 31 名 ⑤ 会報 12 号を刊行
横浜セントラルタウンフェスティバル Y159 への参加や神奈川台場地域活性推進協会との連携事業	① 横浜開港を記念し、関内周辺の商店街組織（馬車道商店街・関内まちづくり振興会、山下公園通り会、横浜中華街発展会・元町 SS 会）と地元マスコミが主催で行われる Y159 イベントに参加した。

	5月26日（土）27日（日）のイベント当日は2日間の無料入館を実施、またウォークラリーのスタンプポイントとなった。 ② 神奈川台場地域活性化推進協会発行の『神奈川台場物語』を監修・執筆し、神奈川区、西区、中区の市立小学校6年生全員に配布した。
横浜商工会議所などの機関誌への原稿執筆および学会との連携事業	① 横浜商工会議所機関誌「Yokohama 商工季報」、横浜港振興協会機関誌「よこはま港」への寄稿 ② 第69回地方史研究協議会大会（神奈川大会）、会場、横浜市開港記念会館の開催（10/20、10/21）



Y159 ウォークラリーポイント



Y159 無料開館 展示室内



6/2 イベント ツアー実施

（5）マスコミ各社への協力

項 目	事 業 内 容 等
テレビ局・新聞社などへの協力	「ヨコハマよみうり」などへの記事連載、BS 日テレ「料理はじまり帖」などへの出演ほか。

（6）実習・研修の受け入れ

項 目	事 業 内 容
博物館館務実習の受け入れとインターンシップなど	① 博物館学芸員資格取得を目指す「博物館実習」受講生を受け入れ、指導を行った。 期間：8/21（火）～8/26（日）、受入数：12人 ② 「子どもアドベンチャー2018」（横浜市主催）に参加 「私も学芸員！資料を整理」参加者数：6人（うち保護者等3人）

（7）広報紙の発行、一般広報等

項 目	事 業 内 容
館報「開港のひろば」発行	企画展示・収蔵資料・館活動の紹介 第140号～143号（年4回）年間合計51,000部
リーフレット類作成	横浜開港資料館案内パンフレット（小中学生用）4,000部 横浜開港資料館案内パンフレット（一般用）10,000部 横浜開港資料館催し物案内、年2回

その他広報	① 横浜観光情報、インターネットミュージアム等の情報サイトへの情報掲出 ② 当館HPやメールニュースによる催し物等の情報発信 ③ 市営地下鉄関内駅構内、みなとみらい線日本大通り駅構内への企画展ポスター掲示 ④ 市内公共施設、博物館、図書館、観光施設、ホテル、駅観光案内所等への広報印刷物の配布 ⑤ 新聞、タウン情報誌等への情報発信、記事掲載 ⑥ TV、ラジオ、新聞、CATV等のメディアからの取材受け ⑦ 市広報誌への記事掲載依頼
-------	---

(8) 横浜市役所などとの連携事業

項 目	事 業 内 容 等
横浜市役所との連携事業	「広報よこはま 中区版」に連載記事「なか区歴史の散歩道」を都市発展記念館職員と分担して執筆。横浜市広報課発行「季刊誌横濱」各号への執筆協力。横浜市広報番組 TVK「ハマナビ」出演。横浜市経済局の依頼により AI 運行バス端末を旧館ホールに設置(11/6～12/12)
アイカレッジへの講師派遣など	12/9 アイカレッジへ講師派遣(受講者 148 名)、市立中尾台中学校などへ生徒向け講座の講師派遣など

5 情報事業(定款第4条第1項第1号②)

インターネット等を利用して、文化財・歴史資料及び展示等に関する情報を提供するためにデータの入力等を行い文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項 目	事 業 内 容
インターネットによる情報公開	展示・催し物・刊行物の広報や、収蔵資料の紹介を随時、行った。また、昨年更新した OPAC システムに所蔵図書・新聞雑誌の追加アップを行った。「開港のひろば」の更新を随時、おこなった。 ・HP アクセス件数 合計 133,682 件
メールニュースの配信	「横浜開港資料館メールニュース」を第 155 号～第 167 号(計 13 回)、およそ 1,100 名の登録者に配信した。

6 開港資料館施設維持事業(定款第4条第1項第1号③)

開港資料館の維持管理及び運営を行いました。施設老朽化にともない収蔵庫空調機が故障し、修理を完了しました。今後も横浜市と連絡を密にしながら適切な管理をおこなっていきます。

管理対象施設	事業内容・所在地など
開港資料館	資料の保管・管理、資料館の施設維持・管理を適切に実施した。

7 開港資料館収益事業（定款第4条第1項第2号）

（1）ミュージアムショップの経営

- ① 企画展関連書籍や絵はがき・バンダナ・ミニタオル等のグッズを販売した。
- ② 開港（開館）記念日にセールを実施した。

（2）自動販売機（1台）の設置

施設利用者の利便を図るため、新館脇に自動販売機を設置した。

（3）喫茶室の委託

来館者サービスとして付属棟において、喫茶室の営業を実施した。

店名：Au jardin de Perry（ペリーの庭で）

＜各事業の推移＞

（千円）

項 目	平成30年度	平成29年度	平成28年度
ミュージアムショップ売上	3, 862	4, 811	4, 112
自動販売機手数料収入	102	112	122
喫茶室委託料収入	1, 913	1, 818	1, 920

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	30年度末の所蔵資料点数は約27万点になった。今年度の資料収集点数は179点と例年より少なかったが、膨大な量と質を持つ中山家の資料整理は順調であり評価できる。閲覧室の利用者数は約2千人で、レファレンス件数（電話と来館による問い合わせ）も2千2百件を超えた。	A
調査研究事業	調査研究員の研究事業および外部研究者に委託した調査研究活動は順調で、その成果を展示・講座・出版で公開した。研究の成果は新聞・テレビなどで多数取り上げられた。	A
常設展事業	新収・新発見資料を紹介する「ミニ展示」と記念ホールでの展示を7回にわたって開催した。常設展の大幅なりニューアルが難しい現状下で、「ミニ展示」ではあるが市民に興味深い内容の展示を継続して実施したことは評価できる。	B
企画普及事業	Y159や開港記念日などの無料入館日に多くの入館者があり、今後も施設の知名度をあ	A

	げるべく、地域のイベントなどに積極的に協力していく予定である。	
情報事業	HP・メールニュースでの情報発信を順調におこなった。マスコミへの情報発信だけでなく横浜商工会議所などの機関誌への寄稿をおこない所蔵資料の紹介に努めた。	A
施設維持事業	資料の保管・管理、資料館の施設維持・管理を適切に実施した。施設の老朽化や器械の故障が多発する現状にありながら館運営に支障がないように努めた。	A
収益事業	開港記念日にセールを行い、売上の増加を図るとともに、在庫の販売強化につとめた。喫茶室のあり方について財団内部での協議を開始した。	B

4 都市発展記念館事業

都市発展記念館では、横浜での陸上交通のインフラ整備の様子を紹介した「伸びる鉄道、広がる道路～横浜をめぐる交通網」と戦後の横浜の街並みや人びとの姿を写真で紹介した「奥村泰宏・常盤とよ子写真展～戦後横浜に生きる」の2つの企画展示を開催しましたが、両展示は従来から都発が扱ってきたテーマである横浜をめぐる交通網や昭和期の横浜をより深く紹介したものであり、展示を通じて都発の存在を内外に広く知らしめることができました。また、年間来館者数は前年比150%の2万3000人に達しました。さらに、展示開催にともない奥村泰宏氏と常盤とよ子氏が撮影した写真が大量に寄贈され、都発の戦後写真コレクションの充実がはかられました。一方、2つの企画展示には市史資料室所蔵資料が多数出品され、両施設間の連携強化をはかることができました。

市役所や諸団体との連携事業では、横浜市から新市庁舎敷地に野外展示される遺構の解説パネル作成を受託し、今後、完成した解説パネルは新市庁舎敷地内に設置される予定です。また、地域の商業団体が開催するY159イベントにも参画し、5月26日・27日のイベント当日の入館者数は5000人を超えました。さらに、横浜市開港記念会館を会場として開催された地方史研究協議会(全国的な歴史研究学会)の大会にも協賛し、都発の専門職が報告者として研究報告などをおこないました。このほか、市内小学校団体の受け入れや夏祭りのイベントなどを予定通り順調におこないました。

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

横浜の都市形成、生活文化の歴史に関する資料を、購入・複製・マイクロ撮影等により収集し、分類・整理するとともに、良好な状態で保管するため、資料の修繕・燻蒸や定期的な環境調査を行いました。

(1) 資料収集

項 目	点 数	事 業 内 容
-----	-----	---------

資料の寄贈・寄託	寄贈14件 3,463点 寄託0件 0点	主な収集資料：奥村泰宏・常盤とよ子氏関係資料、聖母愛児園・ファチマの聖母少年の町関係資料、日本厚生団・ボーイズホーム関係資料、横浜復興貿易博覧会記念コーヒーカップ、横浜市電乗務員腕章、伊藤正平氏旧蔵国鉄関係資料ほか
資料の購入	12件 16点	主な収集資料：同潤会六浦住宅関係資料、米国第八軍印刷工場、郊外土地合資会社経営地案内、京浜工業地帯造成事業計画書、関東大震災アルバムほか
資料修繕	0件	主な修繕資料：なし
資料の複製収集	0件 0点	主な複製資料：なし
資料のデジタル化	230点	主な資料：奥村泰宏・常盤とよ子氏撮影写真
複製資料の提供	37件 83点	他の博物館や公共機関、出版社、個人などへ所蔵資料を画像で提供した。
資料の特別利用	4件 56点	調査研究目的による所蔵資料の原資料での特別利用に対応した。
資料の貸出	2件 31点	他の博物館施設での展覧会に当館所蔵資料を貸し出した。

(2) 資料収集実績 (H30.4～H31.3)

区 分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
遺物	- (-)	- (-)	81 (19)	- (-)	81 (19)	1,657 (1,576)
図書	6 (67)	- (14)	60 (11)	- (-)	66 (92)	2,388 (2,322)
新聞雑誌	- (-)	- (-)	- (25)	- (-)	- (25)	2,172 (2,172)
文書	6 (-)	- (-)	274 (202)	- (-)	280 (202)	4,368 (4,088)
紙票類	- (6)	- (-)	179 (470)	- (-)	179 (476)	5,422 (5,243)
写真	1 (-)	- (-)	2,861 (22)	- (-)	2,862 (22)	21,849 (18,987)
絵葉書	- (-)	- (-)	5 (32)	- (-)	5 (32)	2,501 (2,496)
地図	3 (4)	- (-)	3 (4)	- (-)	6 (8)	736 (730)
図面	- (-)	- (-)	- (1)	- (-)	- (1)	941 (941)
絵画	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	2 (2)
映像	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	55 (55)
録音資料	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	171 (171)
電子資料	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	12 (12)

合 計	16 (77)	- (14)	3,463 (786)	- (-)	3,479 (877)	42,274 (38,795)
-----	------------	-----------	----------------	----------	----------------	--------------------

※（ ）内は、前年度点数。

(3) 資料の保存・管理

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
保存燻蒸処理	未燻蒸資料の一部について、ユーラシア文化館と共同で外部倉庫での資料燻蒸を実施した。また、小型、少量の資料については、脱酸素剤を用いた無酸素法により適宜殺虫処理をおこなった。
環境調査	虫菌による被害を未然に防ぎ、大気・塵埃・光線等の影響を最小限に抑えるため、年6回の環境調査をユーラシア文化館と共同で実施した。

(4) 資料保管施設

保管施設	保 管 資 料
都市発展記念館・ユーラシア文化館収蔵庫 (200㎡)	図書、文書、紙票類、地図、図面、出土遺物などを収蔵
外部倉庫 (子安台)	大型家具 (昭和初期の置時計・大テーブル他) などを収蔵
外部倉庫 (大黒ふ頭)	麻真田関係資料、映像フィルム、未整理資料などを収蔵

2 調査研究事業 (定款第4条第1項第1号①)

「都市形成」「市民のくらし」「ヨコハマ文化」の3つのテーマに即して、資料調査・研究を行いました。また開港資料館・市史資料室・歴史博物館との連携研究事業を進めました。

(1) 基礎的調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
横浜都市形成史 (3/3年次)	【交通】「長谷川弘和氏鉄道関係資料」のうち、紙票類 (神奈川県内の国鉄・私鉄および横浜市交通局などの路線図・広報印刷物・切符等) の整理を引き続き進め、公開の準備を完了した。 【近代遺跡】国内製造のフランス瓦について、文献資料と現地調査から三河地方における製造史を把握し、横浜市域と周辺から出土したフランス瓦をもとに形式分類を試みた。その成果は埋蔵文化財センター調査研究員との共同執筆で、紀要第15号に「大正・昭和期の横浜におけるフランス瓦」として紹介した。
横浜都市経済・産業史 (3/3年次)	引き続き過去の商業統計調査類 (国・神奈川県・横浜市・他) の作成状況と所在先を調査し、一部データを収集し分析した。
横浜市政史/都市生活・文化史 (3/3年次)	戦後横浜の民間社会事業団体が所蔵する資料を調査し、関係者に対する聞き取り調査もあわせて行った。また、戦後占領期の横浜の街並みと市民生活を撮影した奥村泰宏、常盤とよ子夫妻の写真資料を整理し、関連資料の調査をあわせて行い、その成果を企画展「奥村泰宏・常盤とよ子写真展 戦後横浜に生きる」で公開した。

(2) 連携研究事業

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
戦中・戦後期の都市横浜に関する連携研究	戦争の時代から戦災復興を経て、高度経済成長への至る昭和期横浜の歴史を多角的に明らかにする調査研究事業を、市史資料室・開港資料館と連携して実施した。今年度は8回の定例報告会を開催した（テーマは下記）。また、『広報よこはま』（昭和38年～44年）の記事見出し一覧のホームページ公開に向けた作業を完了した。 ①年間スケジュールの検討／②高度成長期における横浜駅前の変容について／③横浜と神奈川県県央部の日本軍施設／④横浜高等工業学校と建築家中村順平／⑤1968年の社会史－神奈川新聞の記事から－／⑥戦後横浜の「浮浪児」・戦争孤児の実態について／⑦京浜地域の浴場経営者と新潟県西蒲原郡／⑧次年度内容の検討 ※開港資料館・市史資料室との連携研究事業
地図データベース作成に関する連携研究（横浜を中心とする「地図データベース」活用に関する調査研究事業）（3／3年次）	当館及び開港資料館、市史資料室が所蔵する地図資料を横断的に検索ができるよう整理・目録化を図る事業である。三施設の既存の地図データを統合して母体となるデータベースを作成し、各施設で所蔵する地図資料を順次調査してデータベースの拡充を進めた。その成果をもとにして、ホームページ上で地図資料の高精細画像データを公開した（「横浜地図データベース」）。また、紀要第15号に「都市横浜をめぐるさまざまな地図とその系譜」と題する報告をまとめた。 ※開港資料館・市史資料室との連携研究事業
昭和期の横浜の都市生活に関する調査研究（3／3年次）	磯子区の時計店に勤務していた下平政熙氏の直筆日記（当館蔵）の昭和15～19年分をもとに、昭和戦中期横浜の都市生活の具体的様相について検討し、紀要第15号で「昭和戦中期横浜の都市生活誌（上）－横浜市磯子区の下平政熙氏の日記から（3）」として報告した。 ※開港資料館との連携研究事業
共同資料調査	都筑区川和町の旧家である中山恒三郎家資料について、開港資料館と共同で資料整理を進めた。（開港・歴博との連携研究事業）

(3) 研究紀要の発行

書名	発行部数	目的・意図 及び 内容・成果
横浜都市発展記念館 紀要 第15号	700部	・都市横浜をめぐるさまざまな地図とその系譜 ・昭和戦前期横浜の都市生活誌（下）－横浜市磯子区の下平政熙氏の日記から（3）昭和15～19年－ ・元町公園内採集のタイル ・大正・昭和期の横浜におけるフランス瓦

3 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）

常設展示室の維持管理を行うとともに、「常設展示室コーナー展」として話題性のある資料や

新収蔵資料、企画展関連資料による展示を定期的に更新し、集客と来館者サービスに努めました。

(1) 常設展示に関する実施事業

項 目	事 業 内 容
展示資料の更新	・教員研修や小学校団体見学向けに、コーナー「吉田新田その後」を常設的に設置した。 ・博物館実習の一環として、実習生による収蔵資料紹介コーナー「客船黄金時代の横浜へ」を設置した。(8/30～11/3)
コーナー展の開催	・京急電鉄創立120周年記念ミニ展示「京浜電気鉄道と湘南電気鉄道」 3/21(水)～7/1(日) 企画展「伸びる鉄道、広がる道路」の関連事業として実施。当館で所蔵する歴史資料を中心に、同電鉄のあゆみを紹介した。 協力：京浜急行電鉄株式会社 ・横浜の戦争孤児を救ったボーイズホーム 2/16(土)～5/6(月) 戦後横浜に多く存在した戦争孤児の保護施設、ボーイズホーム関連の資料群が寄贈されたことを記念し、同施設の活動について寄贈資料から紹介した。
英文ガイドの作成	国際都市計画史学会2018横浜大会(7/15～19、会場：横浜市開港記念会館)の開催にあわせて、横浜市立大学国際総合科学部鈴木伸治研究室の協力を得て外国人見学者向けの英文ガイドを作成し、試験的に配布した。

(2) 常設展示観覧者の推移(目標数48,000人)

	有料入館者(人)			無料入館者(人)	合計(人)	前年比	開館日数	1日平均入館者(人)
	一般	小中	計					
30年度	942	663	1,605	40,287	41,892	119%	307日	136
29年度	874	664	1,538	33,811	35,349	92%	307日	115
28年度	970	872	1,842	36,555	38,397	111.7%	307日	124

4 企画普及事業(定款第4条第1項第1号②)

昭和期を中心とした横浜の歴史をより身近で興味深く感じてもらえるよう、またより多角的な視点から紹介できるよう、展覧会をはじめ、講座や各種イベントの開催、出版等の事業を開催しました。また、より多くの方に当館へ足を運んでいただけるよう、年11回の夜間開館日を設けて午後7時まで開館時間を延長しました。

昨年度に引き続き、小学校団体の受け入れや市民ボランティアの活用、ユーラシア文化館や開港資料館・市史資料室との連携、外部機関との協力に力を入れることで、幅広い事業展開を実現しました。

(1) 企画展の実施

展示名／開催期間	観覧料	入館者数	目的・内容
企画展「伸びる鉄道、広がる道路～横浜をめぐる交通網」 平成30年4月14日(土)～7月1日(日) 会期 68日	一般 300円 小・中 150円	9,539人 (目標数 6,800人)	横浜は幕末の開港以来、日本を代表する港町として発展した。しかし、その都市形成には海の交通はもちろん、陸の交通が深く関わってきた。陸上の交通インフラは鉄道と道路に分けられる。近代化とともにまず鉄道が主役で道路がそれを補完する時代となり、そして現代の社会では鉄道と道路がそれぞれ役割を分担するようになっている。この企画展では、そのような横浜の交通インフラとそのネットワークのあゆみを紹介した。 【展示構成】 I 交通インフラの文明開化～「歩く道」から「鉄のレール」へ II 近代交通ネットワークの完成～「陸の王者」鉄道 III 現代の交通～高速鉄道と自動車道路の時代 【関連事業】 ①京急電鉄創立120周年記念ミニ展示「京浜電気鉄道と湘南電気鉄道」 2018(平成30)年3月21日(水)～7月1日(日) 協力:京浜急行電鉄株式会社 会場:当館4階常設展示室ミニ展示コーナー ②首都高横羽線開通50周年記念写真パネル展「開通した当時の横浜の高速道路」 2018(平成30)年4月14日(土)～7月1日(日) 協力:首都高速道路株式会社 会場:当館1階ギャラリー(無料ゾーン) ③展示図録の発行 編集:都市発展記念館、発行:ふるさと歴史財団 体裁:A4判・並製・96頁(全カラー)、部数:1,300部(販売用1,000部)、価格:1,500円(税抜き) ④展示解説の実施 4月29日(日)午後2時、5月3日(祝・木)午後5時(※夜間開館)、同27日(日)午後2時、6月10日(日)午後2時、同24日(日)午後2時 ⑤ワークショップの実施 ジャンボ双六(「京浜急行沿線名所めぐりスゴロク」等)など
横浜都市発展記念館開館15周年記念展「奥村泰	一般 300円	14,035人 (目標数	本展示では戦後横浜の街並みや占領期を生きる人々の姿を撮影した、奥村泰宏・常盤とよ子夫妻の

宏・常盤とよ子写真展 戦後横浜に生きる」 平成30年10月6日(土) ～平成30年12月24日 (月・祝) 会期69日	小・中 150円	8,000人)	写真を展示するとともに、関連する歴史資料を展示し、当該期における横浜の社会的諸問題にも焦点を当て、各テーマについて紹介した。 【関連事業】 ① 展示図録の編集・発行 定価：1,400円(税抜)、売上：699冊 ② 展示担当による展示解説 第1回(11/3夜間)35名、第2回(11/18)29名、第3回(12/2)61名、第4回(12/16)59名、第5回(12/22夜間)48名、第6回(12/24)51名計283名。 ③ 関連展示「聖母愛児園分園『ファチマの聖母少年の町』の記録」 会場：1階ギャラリー ④ ワークショップ「昔の遊びを体験しよう！」 会期中の毎週土日・祝日に開催
次年度企画展準備			次年度開催予定の企画展「昭和の観光旅行きつぷ」(仮)、「洲干島遺跡展」(仮)に向けて資料調査を実施した。



展示解説



常盤とよ子氏来館

(2) 企画展示室観覧者の推移

(人)

	有料入館者	無料入館者	合計(人)	前年比	開館日数	1日平均入館者
30年度	7,516	16,058	23,574	152.0%	136	173
29年度	4,215	11,293	15,508	87.1%	137	113
28年度	3,713	14,092	17,805	132.2%	136	131

(3) 普及啓発事業・集客イベント

事業名称	参加者数	事業内容
首都高横羽線開通50周年記念 写真パネル展「開通した当時の 横浜の高速道路」		企画展「伸びる鉄道、広がる道路」の関連事業として実施。横羽線を中心に当時、続々と供用を開始した横浜の高速道路を振り返った。

H30. 4. 14（土）～7. 1（日）		協力：首都高速道路株式会社 会場：1 階ギャラリー
開港記念日 H30. 6. 2（土）	1, 894人	市内の小学校が休みとなる 6 月 2 日の開港記念日を無料開館日とし、通常の企画展関連ワークショップに加えて、小学生向けのワークショップを開催した。また夜 7 時まで開館時間を延長した。 活動支援ボランティアによる支援（7 人）
「ミュージアム・ミッション 2018」への参加 H30. 7. 21（土）～8. 31（金）	90人	神奈川県立歴史博物館が主催する夏休み期間中の子ども向けクイズラリー「ミュージアム・ミッション 2018」に参加した。
夏祭りの開催 H30. 8. 11（土・祝）	1, 099人	ユーラシア文化館と共催。無料開館および夜 7 時まで開館時間を延長した。 建物ツアー、民族衣装試着体験、牛乳パックで作ろうスクリー船、大道芸、缶バッジ制作など。 活動支援ボランティアによる支援（10 人）
月イチ講座の開催	149人	1 階ギャラリーを活用した月 1 回の定例の講座を、ユーラシア文化館と共同で開催した。 第 4 回「戦争捕虜となった横浜市民の記録」(7/7、16 人) 第 5 回「戦後モダニズム建築と横浜」(8/18、46 人) 第 6 回「横浜市の地形」(9/15、35 人) 第10回「建築家中村順平と横浜高等工業学校」(1/12、16 人) 第11回「戦後横浜の諸相(5) 横浜の戦争孤児を救った日本厚生団」(2/16、19 人) 第12回「横浜の交通」(3/23、17 人)
開館祭の開催 H31. 3. 9（土）・10（日）	2, 706人	ユーラシア文化館と共催。両日無料開館。3/9（土）は夜 7 時まで開館時間を延長した。 建物見学ツアー、なつかしの街頭紙芝居、馬頭琴演奏会、民族衣装試着体験、オリジナル新聞の製作（新聞博物館との連携）、大道芸・缶バッジ制作など 活動支援ボランティアによる支援（延べ 13 人）



建物見学ツアー



なつかしの街頭紙芝居

(4) 地域・行政・学術団体との連携事業

項 目	事 業 内 容
横浜セントラルタウン・フェスティバルY159への参加 5/26（土）、5/27（日）	中区の商業団体が開催する横浜セントラルタウン・フェスティバルY159に、山下公園通り会として開港資料館・ユーラシア文化館と共同で参加し、両日無料開館した。うち26日は午後7時まで開館時間を延長した。2日間の入館者数5,898人。
横浜市新市庁舎屋外展示解説パネル製作への協力	建設中の横浜市新市庁舎で予定されている屋外展示について、展示される遺構の解説パネルおよび総合展示パネルの作成業務を横浜市から受託した。
展示監修	横浜DeNAベイスターズの依頼により、横浜スタジアム改修工事現場の仮囲いに掲示される「横浜公園球場の歴史」の内容について監修した。
地方史研究協議会神奈川大会の共催 10/20（土）～22（月）	第69回地方史研究協議会神奈川大会を地方史研究協議会との共催で開催した。（会場：横浜市開港記念会館）
「広報よこはま なか区版」への執筆協力	中区に関する歴史資料を紹介する連載記事「歴史の散歩道」を、「広報よこはま なか区版」に開港資料館と共同で執筆した。

(5) 学校連携事業

項 目	事 業 内 容
市内小学校団体見学の受入	小学校4年生のカリキュラムで学習する吉田新田にあわせて、「吉田新田の開発とその後」（関外地区の発展）をテーマに、職員による解説とミニ体験のメニューを実施。130校、11,282人の小学校4年生の団体入館があった。（前年度108校、9,849人）
教員向け研修の実施	財団エドゥケーターと内容を検討し、小学校4年生向けのメニュー「吉田新田の開発とその後」について、夏休みに小学校教員向けの研修を実施した（参加者40人）。
学芸員実習の受け入れ	4名の学生を受け入れた。実習生を主体としてミニ展示を企画してもらい、学芸員の仕事について総合的な理解を深めてもらうと同時に、当館の展示事業のひとつにつなげた。



吉田新田学習



教員向け研修

(6) 広報

項 目	事 業 内 容
印刷物作成	年2回の催し物案内、企画展関連広報印刷物、館報を中心に、適宜イベントチラシを作成・配布を行った。 ・横浜都市発展記念館催し物案内（館案内リーフレット） ・企画展ポスター・チラシ ・館報『ハマ発Newsletter』第30、31号（各10,000部） ・その他、月イチ講座、夏祭り、開館祭チラシなど
優待カードの発行	年間パス「E Aハマ発カード」の販売を継続した。 年会費 1,500円
その他広報	横浜市を通じての記者発表 横浜市文化観光局の媒体を通じての広報活動 市内学校・公共施設へのチラシ配布 日本大通り駅改札外・市営地下鉄関内駅改札外掲示板へのポスター掲出 ホームページ・ブログによるインターネットでの情報配信 テレビ・ラジオ・ケーブルテレビ・インターネット等放送媒体への情報提供、取材受入 新聞各社・雑誌・タウン情報誌・旅行情報誌・その他広報誌等への情報提供、取材受入 市内観光案内所へのチラシ訪問配布 市外都市旅行代理店への施設説明 フィルムコミッションへの協力による撮影場所としてのPR

5 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

インターネット等を利用して、歴史資料及び展示等に関する情報を提供するために、データの入力等を行い、文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項 目	事 業 内 容
ホームページ運営	新着情報の発信 企画展示案内の更新 館報『ハマ発Newsletter』の全文掲載 ミュージアムショップの案内（刊行物・グッズ） 新規コンテンツの作成：「横浜地図データベース」「広報よこはま」 記事見出し一覧」
メールニュース配信	企画展の情報を中心に、関連イベントや月イチ講座、ショップの新商品などの内容を盛り込んだメールニュースを定期的に配信した。 配信数 58号～62号＋号外1回 計6回

ブログでの情報発信	催し物案内や、企画展の見どころ、日常業務などを、各担当者が写真付きでタイムリーにブログで発信した。 記事総数 8 件
-----------	---

6 都市発展記念館施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

都市発展記念館の維持管理及び運営を行いました。

管理対象施設	事業内容・所在地など
都市発展記念館	施設の維持管理 ・主な修繕：業務用EV下ピットの除水、5F（情報文化センターとの接続部）天井ガラス部分のひび割れ補修、収蔵庫の空調室外機工事など。

7 都市発展記念館・ユーラシア文化館収益事業（定款第4条第1項第2号）

（1）ミュージアムショップの経営

① オリジナル商品として、各企画展図録や刊行物のほか、複製地図・絵葉書・DVD・クリアファイルなどを販売した。企画展「伸びる鉄道、広がる道路」にあわせ新規に絵葉書を作製した。

② 委託商品の販売

各企画展に合わせ、一押し商品を目立つところに配置。同じジャンルの書籍を委託・オリジナル関係なく、興味関心のある人がまとめて買いたくなるよう陳列にも工夫した。

（2）自動販売機（1台）の設置

＜各事業の推移＞

（千円）

項 目	平成30年度	平成29年度	平成28年度
ミュージアムショップ売上	7, 173	6, 390	5, 514
自動販売機手数料収入	85	85	89

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	寄贈を中心に、3,000点以上の資料を収集した。なかでも奥村泰宏・常盤とよ子氏の写真が寄贈されたことで、戦後写真コレクションの一層の充実につながった。	S
調査研究事業	開港・市史と3館による定期的な研究会を充実させ、中心的な役割を担った。調査研究の成果は企画展・紀要等で公表し、高い評価を受けた。	A
常設展事業	年間の来館者数は、41,000人を超えた。新規寄贈資料や企画展の関連資料をコーナー展示で紹介	B

	するなど集客につとめ、常設展示がマンネリ化しないようにつとめた。	
企画普及事業	2回の企画展示はいずれも好評であり、年間の総入館者数は前年比150%の23,000人を記録した。またいずれも展示図録の売り上げが好調で、事業収入でも目標を大幅に上回った。	S
情報事業	ホームページでの新規コンテンツ「横浜地図データベース」、「『広報よこはま』記事見出し一覧」の公開準備を進めた。	A
施設維持事業	施設の老朽化が進み大幅な更新が必要な個所が出始めているが、日々の運営を滞らせることなく円滑な運営に努めることができた。	A
収益事業	企画展の入館者増に準じて、図録の売り上げも順調に伸びたことにより、ミュージアムショップの収益増につながった。	A

5 ユーラシア文化館事業

本年度は、国際都市横浜の博物館として、市民の異文化理解を一層進めていくため、大学をはじめ、他の研究機関や博物館、諸施設と連携した展覧会やイベントを積極的に実施すると共に、学校教育との連携にも積極的に取り組みました。

展覧会では、大学や他の博物館などと連携・協力した、企画展「バリを抱きしめて一暮らして集めた伝統衣装―」と「博士の愛した中国陶磁―美と技の5000年―」を開催し、図録を刊行しました。また、8回の夜間開館延長を実施しました。

常設展示では、一部を企画展に合せて展示替えし、資料を初公開するなどして、収蔵資料の公開と学校教育への協力を行いました。

調査研究では、収蔵資料の基礎的研究や展覧会へ向けての調査研究とともに、歴史博物館や館外の研究者と協力してユーラシア概念の一般化を目指す研究も継続して進めました。学校との連携では定着した小学4年生の学校団体見学利用に加え、当館独自の取組として、小学2年生の国語学習（「スーホの白い馬」）と関連付けて、ゲルを活用した学校団体の見学及び馬頭琴・民族衣装の体験を積極的に進めました。

普及啓発事業では、1階のフリースペース（ギャラリー、旧第一玄関）や中庭を活用し、各種パネル展、企画展に関連した写真展やワークショップ、ユーラシア文化館・都市発展記念館専門職員の連続講座（月イチ講座）など多様な催しを実施しました。さらに、5月26日・27日のY159、6月2日の開港記念日、夏期の夏まつり、3月の開館祭を無料開館とし、市民の方が当館を身近に感じていただけるような様々なイベントを展開し、多くの方々の来館を得ました。イベントには、市民ボランティアを受け入れるとともに、国際フェスタへの参加や、館の外での活動にも取り組みました。

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

ユーラシアの考古・美術・民族・歴史資料および文献等を分類・整理するとともに、良好な状態で保管するため、収蔵庫や展示室を常に適切な状態に保つよう環境検査を行いました。

（1）資料収集・保存

項 目	点 数	事 業 内 容
資料の寄贈・寄託	寄贈143点 寄託0点	主な収集資料：ウズベキスタンの陶器、横浜華僑婚礼関係資料、白虎文塙拓本ほか
資料の購入	0点	
資料熟覧	3件	他機関の研究員による調査研究や大学の保存修復講座の学芸授業などに対応した。
文献資料熟覧	2件	『文物』ほか
資料の貸出	4件	他館特別展等への収蔵資料の貸し出しおよび小学校への学習教材（民族衣装、馬頭琴など）の貸出しを行った。
収蔵資料の画像利用	1件	古代文字研究者の調査研究

（2）文献資料の整理

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
和・洋図書	書誌データの入力を行った。入力確認件数 33 件
中国語図書	書誌データの入力を行った。入力件数 941 件。OPAC にて公開開始。
洋雑誌	未着手。
和雑誌	書誌データの入力を行った。入力件数 467 件

（3）資料収集実績

区 分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
考古・美術・民族・ 歴史資料	0 (一)	0 (一)	142 (70)	0 (7)	142 (77)	8,809 (8,667)
図書	1 (1)	0 (一)	969 (351)	0 (0)	970 (352)	22,462 (21,492)
雑誌	0 (0)	0 (0)	35 (76)	0 (0)	35 (76)	8,299 (8,264)
電子資料	0 (0)	0 (0)	0 (2)	0 (0)	0 (2)	19 (19)
合 計	1 (1)	0 (0)	1,146 (499)	0 (7)	1,147 (507)	39,589 (38,442)
累計	899	2	38,508	180	39,589	

※（ ）内は、前年度点数。

（4）資料の保管

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
保存燻蒸処理	「ふくろう君」（文化財用炭酸ガス）による資料の燻蒸に加え、外部燻蒸庫を借用して酸化プロピレンを使用した殺虫殺菌燻蒸を実施した。

環境検査	虫菌による被害を未然に防ぎ、大気・塵埃・光線等の影響を最小限に抑えるため、年6回の環境検査を実施した。
------	---

(5) 資料保管施設

保管施設	保管資料
都市発展記念館・ユーラシア文化館収蔵庫 (200 m ²)	考古・美術・民族・歴史・文献資料を収蔵。
外部倉庫 (大黒ふ頭)	図書 (江上文庫の重複本など)、販売用出版物などを収蔵

2 調査研究事業 (定款第4条第1項第1号)

収集資料の整理、企画展や講演会の基礎的資料収集・調査研究を行い、十分な成果を上げてきています。また、ユーラシア概念に関する歴史博物館との共同研究については、30年度も継続して実施しました。

(1) 基礎的調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
収蔵資料と関連資料の研究 (3/5年)	国内及び海外の博物館等にてイスラーム時代のガラスや陶器資料を実見し情報を収集した。円筒印章の整理は未着手である。
横浜市内にあるユーラシア関連資料の調査・研究 (3/5年)	市民からの新たな寄贈・寄託の申し出への対応を優先したため、画像のデジタルアーカイヴズへの公開には至らなかったが、市民から寄贈を受けた中国古鏡関連資料に基づいて構築・公開した銘文データベースを更新したほか、旧蔵者の古鏡銘文に関する研究成果を紀要で公開した。
遊牧世界の物質文化の研究 (3/5年)	外部研究会に参加して知識を深め、館内外の講座などの内容に反映させた。紀要第7号に当館収蔵の関連資料を紹介し、また同分野の研究者の論文を掲載した。無料配布用の小冊子『草原の暮らし』を刊行した。
ユーラシア概念をめぐる研究 (3/5年)	歴史博物館と連携し、共同研究会を実施。歴史博物館学芸員および外部研究者の協力を得て、日本や東アジアを含むユーラシア諸地域の文化交流についての最新調査研究成果を共有した。各研究報告については、当館紀要にて要旨を公開している。(歴史博物館との連携事業)
お茶の展開ルートに関する研究 (3/3年)	館蔵資料の整理を行った。
「唐物」と東部ユーラシアに関する研究 (3/3年)	上記「ユーラシアの概念をめぐる研究」に関連して行われた「唐物」をテーマにした研究発表を、紀要第7号に論文として掲載した。
平成31年度以降開催予定の企画展調査	31年度以降の企画展に関し、基礎的な調査や資料所蔵先との交渉などを行った。

(2) 研究紀要の発行

『横浜ユーラシア文化館紀要』第7号 (A4判、100頁、400部) を発行。

3 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）

常設展示室において、企画展と連動した展示替えを行いました。また、展示資料に関連するクイズを配布するなど、集客とサービスの向上を図りました。展示ケース照明の修繕を行うとともに展示室全体の照明の見直しを行い、見易く雰囲気の良い展示室への改善に努めました。

（1）常設展示室での実施事業

項 目	事 業 内 容
展示更新	・企画展やイベントに合わせて、入口ケース、「装う」、「伝える」の展示替えを行った。また、新年の干支に合わせて館蔵品の拓本「狩猟図」を期間限定で展示した。 ・企画展やイベントにあわせて、ライブラリーに関連図書を配架した。

（2）常設展示観覧者の推移（目標数 40,000 人）

	有料入館者（人）			無料入館者（人）	合計（人）	前年比	開館日数	1日平均入館者(人)
	大人	小中	計					
30年度	912	441	1,353	40,143	41,496	117.5%	305日	136.0
29年度	985	589	1,574	33,730	35,304	93.0%	305日	115.8
28年度	855	569	1,424	36,534	37,958	113.8%	306日	124.0

4 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

都市発展記念館と二施設一体となって市内学校団体受入や、市民ボランティアの活用によるワークショップの充実、各種イベントを実施しました。また、より多くの方に当館へ足を運んでいただけるよう、年間8回、午後7時までの延長開館日を設けました。

（1）企画展の実施

企画展名/開催期間	観覧料	入館者数	目的・意図 及び 内容・成果
企画展 「バリを抱きしめて 一暮らして集めた伝統 衣装」 H30.7.14(土)～ 9.24(月) 会期73日間（うち開館 日数63日）	一般 300円 小中 150円	5,682人 （目標数 5,500人） 1日あたり 103人	武居郁子氏のコレクションである、伝統衣装に用いる布や装身具類約300点を通して、バリの知られざる儀礼と文化を紹介した。バリの伝統衣装をテーマにした展示は当館で、また国内でも初めての実施であったが、アンケート回答などから多くの方がバリや民族衣装に関心を持っていることがわかった。 （日本・インドネシア国交樹立60周年記念事業） ●展示図録の編集・発行 展示図録『バリを抱きしめて』21×18 cm、64頁 定価：1,000円（税抜）、売上：206冊 【関連事業】 ①ギャラリートーク（7/14（2回）、7/22、8/19、8/26、9/2、9/16、9/17、9/21 夜間 会期中9回） 参加者336人（観覧券のみ） ②スライドレクチャー（8/25）

			参加者 20 人（参加費 500 円） ③舞踊ワークショップ（8/26） 参加者 20 人（参加費 1,000 円） ④ワークショップ（ボランティア参加） a. バリの衣装を着てみよう！ b. ガムランを体験！ 土、日、祝日開催 参加者延べ 1,129 人
企画展 「博士の愛した中国陶磁—美と技の 5000 年—」 H31. 1. 19（土）～ 3. 31（日） 会期 72 日間（うち開館日数 62 日）	一般 300円 小中 150円	8,667人（目標数） 8,900人 1日あたり 139人	当館開館 15 周年を記念し、開館 20 周年を迎えた早稲田大学會津八一記念博物館との共催で、両館収蔵の中国陶磁の優品約 70 点を制作年代に沿って展示し、新石器時代後期から近代に至る陶磁器の歴史を展覧しその魅力を紹介した。会期中に展示資料のスケッチを取り入れたワークショップと、日本を含む東部ユーラシアをテーマにした記念講演会を行う。中国の春節を紹介する写真展を同時開催する。（早稲田大学會津八一記念博物館と共催、會津八一記念博物館が 175 万円負担） ●展示図録『博士の愛した中国陶磁—美と技の 5000 年—』A4 判、80 頁、1,389 円（税抜き）を早稲田大学會津八一記念博物館と共同出版。 【関連事業】 ①ワークショップ（ボランティア参加） a. お気に入りは何？ 会期中毎日実施、参加者 334 人 b. 美術記者にチャレンジ！（日本新聞博物館と連携） 会期中計 18 回実施、参加者 10 人 ②ギャラリートーク 会期中 6 回実施 参加者数 計 183 人 ③記念講演会「東部ユーラシアの中の日本—文物の交流にみる—」（2/10） 受講者 82 人（受講料 500 円） ④横浜中華街春節写真展 1 階ギャラリー（無料ゾーンで開催）
企画展基礎調査			来年度開催予定企画展の基礎調査を行った。



企画展関連ワークショップ
バリダンス



企画展記念講演会
東部ユーラシアの中の日本



展示関連1階ギャラリー
横浜中華街春節写真展

(2) 企画展示室観覧者の推移

(人)

	有料入館者	無料入館者	合計	前年比	開館日数	1日平均入館者
30年度	3,456	11,017	14,473	88.7%	126	115
29年度	3,698	12,614	16,312	102.6%	124	132
28年度	3,993	11,912	15,905	98.4%	122	130

※H30年度の観覧者については、H29年度に実施した企画展「魅惑のランプー古代地中海からヨーロッパ、アジア・日本まで」の会期（H30.1.20～H30.4.1）のうち、H30.4.1の入館者分を含む。

(3) 講座・講演会

項 目	参加者数	内 容
月イチ講座の開催	92人	1階ギャラリーを活用し、気軽に参加できる講座を月に一回開催した。都市発展記念館と連携。 第1回「ユーラシア世界のランプ」（4/7 7人） 第2回「ラクダの造形」（5/19 7人） 第3回「『シュリーマン直筆幕末日記』研究余話」（6/23 24人） 第4回「横浜の中国人墓地」（10/20 20人） 第5回「初期騎馬遊牧民の動物紋様」（11/17 19人） 第6回「マルコ・ポーロと『東方見聞録』西アジアから中央アジアへ」（12/8 15人）

(4) 普及啓発

項 目	参加者数	事 業 内 容
「なか区ブックフェスタ」への参加 H. 30. 10. 1～11. 30	9,625人 期間中の常設 展観覧者数	常設展示室入口にモンゴル民話「スーホの白い馬」に登場するモンゴルの生活道具などを展示し、室内のライブラリーにモンゴル関連の図書コーナーを作った。
「ゲルに集まれ！」 H30. 9. 29(日)～10. 8(月・祝) うち開館日数9日	参加者計 680人	市民、ボランティアと共に中庭にゲルの組立を行うと共に、馬頭琴の展示やモンゴル衣装の試着等を行った。 ・衣装試着（5日間）294人・解説（3回）78人・演奏会（10/8）204人・演奏体験（10/8）104人
夏まつり H30. 8. 11(土)	1,099人	都市発展記念館と連携し、全館無料の「夏まつり」を開催。市民ボランティアの協力を得てイベント・ワークショップを実施し、開館時間を19時まで延長した。

		・バリの衣装を着てみよう！ガムランを体験！〔情文プラザ〕 ・夏休みユーラシア新聞を作ろう！ ・牛乳パックで作ろうスクリー船〔1階図書コーナー〕 ・記念缶バッジ作り〔1階図書コーナー〕 ・大道芸〔エントランス〕 ・企画展示解説・建物トワイライトツアー
よこはま国際フェスタ 2018 H30.10.6(土)	114人	よこはま国際フェスタ2018に参加し、オリジナル缶バッジ作り、シャガイ占い、物品販売を実施。博物館実習生の協力を得た。
開館祭 H30.3.9(土)・10(日)	2,706人	都市発展記念館と連携し、全館無料の「開館祭」を開催。市民ボランティア・市民グループの協力を得てイベント・ワークショップを実施。10日は19時まで開館時間を延長。 ・企画展関連ワークショップ ・スーホの服を着てみよう！〔情文プラザ〕 ・オリジナル新聞をつくろう！協力：日本新聞博物館 ・モンゴルの童話 おはなし会〔情文プラザ〕 読み手：こたりの会、中図書館ボランティアグループ・モックの会 協力：中図書館 ・馬頭琴 きける！ひける！演奏会〔情文プラザ〕 演奏：宮原洋子 協力：天馬の会 ・なつかしの街頭紙芝居〔図書コーナー〕 ・建物ツアー（施設案内） ・大道芸〔中庭〕



国際フェスタにブース出展



馬頭琴コンサート



夏祭り ガムラン体験

(5) 学校連携事業

項 目	事 業 内 容
市内学校団体見学の受入	・国語学習（「スーホの白い馬」）に関連して、小学校教2年生全員にチラシを配付し、日時を決めてゲルの解説、馬頭琴・民族衣装の体験を実施したほか、学校単位の解説申込にも対応した。 2校 237人 ・小学校校向けに教材の貸出を行った。2校

	・ 小学校 4 年生のカリキュラムで学習する吉田新田にあわせて、「吉田新田の開発とその後」(関外地区の発展)をテーマに、都市発展記念館と連携し、職員による解説と体験メニューを実施した。 130校 11,282人(前年度小学校4年生108校 9,849人)
教員向け研修の実施	財団エドゥケーターと連携し、吉田新田の学習をはじめとする教員向け研修を実施した。
学芸員実習の受け入れ	12名の学生を受け入れた。企画展準備や実習により、学芸員の仕事について総合的な理解を深めると同時に、当館イベントスタッフとして活躍した。



小学校 4 年生団体への
吉田新田解説



学芸員実習生によるイベント補佐



小学校 2 年生団体の
スーホーの白い馬学習

(6) 市民協働事業

項 目	事 業 内 容
市民ボランティアによるワークショップの実施	歴史博物館活動支援ボランティアによる当館でのワークショップなどを実施した。 ・ ワークショップのべ活動人数 計 353 人 ・ ゲル建てのべ活動人数 計 9 人 ・ 夏祭りイベントのべ活動人数 計 10 人 ・ 開館祭のべ活動人数 計 13 人

(7) 広報

項 目	事 業 内 容
印刷物作成	都市発展記念館・ユーラシア文化館個々で作成していた館紹介リーフレットと半期ごとの催し物案内を、大きく見やすいものに統合して刊行。常設展示室の案内リーフレットについては、アクセスなどをわかりやすく改善して、配布した。館報については、継続して配布した。 ・ 横浜ユーラシア文化館催し物案内(館案内リーフレット) ・ 常設展示室案内の改定(リーフレット) ・ 企画展ポスター・チラシ ・ 館報『横浜ユーラシア文化館ニュース<i>News From EurAsia</i>』第29・30号(各8,000部)

	・無料配布用の小冊子『草原の暮らし』(5000部)(よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業実行委員会と共同発行)
優待カードの発行	年間パス「E Aハマ発カード」の販売を継続した。 年会費 1,500円
その他広報	・横浜市を通じての記者発表。 ・市内学校・公共施設へのチラシ配布。 ・日本大通り駅改札外・市営地下鉄関内駅改札外掲示板へのポスター掲出。 ・ホームページ・ブログによるインターネットでの情報配信。 ・テレビ・ラジオ・ケーブルテレビ・インターネット等放送媒体への情報提供、取材受入。 ・新聞各社・雑誌・タウン情報誌・旅行情報誌・その他広報誌等への情報提供、取材受入。 ・市内観光案内所へのチラシ訪問配布。 ・市外都市旅行代理店への施設説明。 ・フィルムコミッションへの協力による撮影場所としてのPR。 ・近隣へのダイレクトメール発送。

5 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

インターネット等を利用して、調査研究・展示・出版・講演会・ミュージアムショップなどに関する情報を提供するために、データの更新等を行い、情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項 目	事 業 内 容
簡易検索端末・文献検索端末	資料：常設展示室における主な展示資料を検索できる端末の設置を継続した。
	文献：館蔵文献のOPAC公開を継続・拡充した。
メールニュースの配信	希望者に対するメールニュースの配信を行った。
インターネットによる情報公開	財団開設のホームページ上で、財団各施設案内をはじめ、展示・催し物・刊行物の広報や、収蔵資料・図書文献資料等の紹介を行った。 アクセス件数 合計153,960件（前年度の140%）

6 ユーラシア文化館施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

ユーラシア文化館の維持管理及び運営を行いました。

管理対象施設	事業内容・所在地など
ユーラシア文化館	施設の維持管理 ・主な修繕：横浜市による中長期寿命化修繕計画による外壁及びエレベーター塔工事を実施。

7 都市発展記念館・ユーラシア文化館収益事業（定款第4条第1項第2号）

（1）ミュージアムショップの経営

① オリジナル商品として、各企画展図録や刊行物のほか、絵葉書・メモ帳・クリアファイルなどを販売した。

② 委託商品の販売

各企画展や各種のイベントに合わせ、一押しの商品を目立つところに配置した。同じジャンルの書籍を委託・オリジナル関係なく、興味関心のある人がまとめて買いたくなるよう陳列にも工夫した。

マニラ展を契機としてフェアトレード商品を取り扱い、今までとは違う商品展開と社会貢献にも寄与することができた。

（2）自動販売機（1台）の設置

＜各事業の推移：再掲＞

（千円）

項 目	平成30年度	平成29年度	平成28年度
ミュージアムショップ売上	7, 156	6, 390	5, 514
自動販売機手数料収入	85	85	89

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	資料収集及び整理は地道ながら着実に進捗した。資料の熟覧や他館への貸出など、外部利用者へのサービスも適宜対応した。	B
調査研究事業	計画していた調査研究については、概ね予定どおり進捗することができた。歴史博物館と共同研究を実施する中で、外部研究者と、新たな調査研究の成果を共有した。	B
常設展事業	常設展については、部分的な展示替えや展示資料に関連したクイズを配布するなどの工夫を行うとともに、企画展に合わせ展示内容を連動させるなど集客を図った。	A
企画普及事業	財団内外と連携して2回の展覧会を開催し、好評を得るとともに、他機関と共催するなど経費削減にも努めた。また今年度も、都市発展記念館と一体となって、市内学校団体受入や、市民ボランティアの活用によるワークショップの充実、各種イベントの実施など、多様な催しを実施した。学校連携では、ゲルを利用した教員向け解説などを新規に始めた。	A

情報事業	定期的なメールニュースの発行、HPを利用した情報発信に加えて、新聞等のマスコミを活用するとともにイベントごとに追加でチラシを作成・配布するなど広報強化に努めた。	A
施設維持事業	展示ケース内のランプを LED に交換し、光熱費の削減につながった。また、施設の老朽化が進み大幅な更新が必要な個所が出始めているが、日々の運営を滞らせることなく円滑な運営に努めることができた。	A
収益事業	オリジナル新商品の開発や、企画展の開催に合わせ、関連書籍やグッズの販売などを積極的に行った結果、ミュージアムショップの収益増につながった。	A

6 三殿台考古館事業

国指定史跡である三殿台遺跡への理解を一層深めるとともに、施設の特徴を発揮し、地域や市民により親しまれる施設を目指し、各種事業に取り組みました。

資料収集保管事業では、整理ボランティアによる出土品基礎整理を継続しました。発掘調査から半世紀以上が経ち、劣化の著しい写真等の記録資料をデジタル化することで資料の保全に努めました。調査・研究事業としては、出土品再整理作業を継続して行ない三殿台遺跡の再評価をしました。

常設展事業では、職員による学校団体などへの展示室の解説を行うとともに、住居跡保護棟の維持管理を適切に行いました。さらに 11 月下旬から行われた復元竪穴住居の建替え工事により縄文時代と弥生時代の復元住居が新築され、安全できれいな状態で市民の皆さんに見えていただけるようになりました。

企画普及事業として、リーフレットを配布するとともに、火起こし・勾玉作り・土偶作り・土器作り・石器作り体験教室、古代人体験教室、キャンプ in 三殿台など、さまざまな体験教室を館内で開催するほか、学校や地域へ職員を派遣し連携を図りました。これらのイベント等の開催は、ホームページや広報紙等活用し、周知に努めました。

市民協働事業として、市民ボランティアによる収蔵資料の再整理を行うとともに、ボランティアによる土曜・日曜日の常設展示・遺跡ガイドを継続実施しました。刊行物・缶バッジ・土器片ペンダント・オリジナルクリアファイル・勾玉づくりキットを販売し、収益増加を図りました。

施設の管理運営面では、旧事務棟・展示棟・住居跡保護棟・復元住居・擬木標示遺構の維持管理を適切に実施するとともに、成長した樹木の伐採など、安全性の確保に努めました。

利用者促進事業の一環として、「ダイヤモンド富士観察会」・「弓矢撃ち体験」（無料）を実施した結果、総来館者数は、例年に比べ夏の酷暑や冬の厳しい寒さの日が続いたにも関わらず、前年度とほぼ同様の 14,960 人とすることができた。今後もさまざまな工夫をし、市民サービスの向上、他施設・近隣学校などとの連携や市民協働による普及活動を継続していきます。

1 資料収集保管事業・調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

保管資料について整理・分類・デジタルデータ化等を行い、資料の保全を図りました。

（1）保管資料再整備事業

項 目	事 業 内 容
出土品保管再整備事業	横浜市歴史博物館で開催する企画展に向けて、弥生時代中期後葉を中心に再整理作業を行った。作業には整理ボランティアの協力を得た。
記録資料のデジタルデータ化事業	三殿台考古館保管の測量図面・写真類のデジタルデータ化を継続。遺構が不特定の写真について、特定作業を進めた。
図書資料の受入れと整理	寄贈された図書を整理分類し、120冊の受入れを行った。

（2）調査研究事業

項 目	事 業 内 容
三殿台遺跡の再評価	出土品の整理作業（分類・接合・復元・実測）を行った。この事業は市民ボランティア育成事業と関連付けて行っている。
三殿台考古館収蔵資料の活用	三殿台遺跡発掘調査の映像資料（DVD）を小学校団体見学の事前学習用に貸出した。また、小学6年生の学校見学の際、土器片や石器などの収蔵物を手にとって観察できるようにし、小学生の歴史教育に活用した。



ボランティアによる
整理作業

2 常設展事業（定款第4条第1項第1号②） 30年度観覧実績 14,960人

遺跡・常設展示室・竪穴住居跡保護棟・復元住居・北側貝塚の維持管理を行うとともに、団体および一般来館者見学時に、遺跡や展示品について解説を行いました。

（1）常設展示の維持管理と展示内容の充実

項 目	事 業 内 容
遺跡案内・展示解説の実施	団体および一般来館者見学時に、遺跡・住居跡保護棟・復元住居・展示室・北側貝塚について、職員が2,817人に遺跡案内・展示解説を行った。

（2）住居跡保護棟の適切な保全

項 目	事 業 内 容
住居跡保護棟のメンテナンス等	竪穴住居跡保護棟のメンテナンスを委託し、適切に実施した（9回）。また、住居跡保護棟の窓ガラス8枚に低反射フィルム貼付工を実施し、反

	射による内部の観察障害を軽減した（８年間の実績：64/72 枚）。
--	-----------------------------------

3 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

市民や来館者に遺跡への理解を深めてもらえるように、解説や体験学習を実施し、生涯学習活動を支援しました。また、施設の有効利用と認知度・顧客満足度を高めるための事業を実施しました。

（1）企画普及事業

項 目	参加人数	事 業 内 容
「いそっぴゴールデンウィーク スタンプラリー」への参加	62 人	4月21日から5月6日の期間で、「いそっぴゴールデン ウィーク2018スタンプラリー」に参加した。景品交 換者は35人。 スタンプラリーに合わせてゴールデンウィーク体験 教室を開催した。参加者 34 人
「子どもアドベンチャー2018」 への参加	32 人	「子どもアドベンチャー2018」に参加し、火起こ し体験教室を開催した（8月16日）。 参加者32人（付添保護者34人）
三殿台遺跡整理ボランティア	574 人	三殿台遺跡の再評価を目標にして活動している。弥 生時代中期の遺構を中心に、土器片の分類・接合・復 元・実測および石器の実測作業を行った。 記録資料整理については写真資料整理・デジタル化 作業を行った。
三殿台遺跡ガイドボランティア	74 人	土日を中心に4人のボランティアが交代で来館者へ 遺跡解説を行った。延べ74人が活動し、1,026人をガ イドした。
学校見学の受け入れ	3,167 人	年間を通じて、小・中・高・大学の受け入れを行い、 67 団体が見学した。引率者と事前に相談し、火起こ しなど体験学習メニューを積極的に取り入れた。
職業体験・職業インタビューの 受け入れ	11 人	職業体験として汐見台中学校・岡村中学校・藤の木 中2年生計8人を受け入れた。また、汐見台中学校 の1年生3人が職業インタビューに訪れた。
クラブ活動・総合的な学習・サ マースクール等への支援		・岡村小学校の地域交流クラブに講師を派遣した。 石器づくり・勾玉作り・弓矢づくりなど 各回12人 参加（全9回） ・上大岡小学校のサマースクールに勾玉作り教室の 講師を派遣した。 31人参加 ・飯島小学校火起こし体験教室へ講師を派遣した。 16人参加 ・岡村小学校6年生土器作りの指導に講師2名を派 遣した。63人参加 ・小菅ヶ谷小6年生土器づくりの指導に講師2名を 派遣し、成型と野焼きを行った。各40名参加

ホームページの運営		・復元住居建替え工事に伴いホームページを18回更新した。 ・三殿台遺跡までの地図をアップした。 ・三殿台考古館のEメールアドレスをアップし、イベント参加申し込みに使えるよう準備した。 ・「年間催し物案内」を常時掲載し、体験学習等イベントの情報を発信した。
その他広報		・広報よこはま磯子区版に体験学習の情報を掲載した。 ・プラネット神奈川や横浜カレンダーに情報を提供した。 ・市立小学校社会科研究会で三殿台遺跡を紹介し、活用してもらうよう案内した。 ・子どもとお出かけ情報「いこーよ」にイベント情報を掲載した。

(2) 体験学習事業

項 目	参加人数	事 業 内 容
体験学習の実施	510 人	・ ゴールデンウィーク体験教室 5月3・4・5日 3日：火起こし教室 6人 4日：勾玉作り教室 23人 5日：石器作り教室 16人 ・ キャンプ in 三殿台 7月22・23日：6家族 2日間延べ46人 ・ 夏休み体験教室 ①勾玉作り教室 7月28日・8月17日 12人 ②土偶作り教室 7月15日 23人 ③土器作り教室 7月16日 26人 ※野焼き 8月25日 42人（保護者込み） - 石器作り教室 8月22日：8人 ・ 秋の土器作り教室 10月6・7・8・27日 各回8人 ・ 随時実施の火起こし・勾玉作り - 火起こし 230人、勾玉作り 46人



土器作り



野焼き

(3) その他利用促進事業

項 目	参加人数	事業内容
古代人体験教室	2,832 人	弓矢撃ち体験の実施。無料。

(4) グッズ製作・販売事業

項 目	事業内容
缶バッジの製作・販売	缶バッジの製作・販売 販売価格 1 個 100 円 30 年度売上げ 170 個 17,000 円
土器片ペンダントの製作・販売	土器片ペンダントの販売 販売価格 1 個 700 円・500 円 30 年度売上 @700×17 個+@500×7 個 15,400 円
オリジナルクリアファイルの販売	オリジナルクリアファイルの販売 販売価格 1 枚 200 円 30 年度売上 116 枚 23,200 円
勾玉づくりキット	勾玉づくりキットの製作・販売 販売価格 1 個 300 円 30 年度売上げ 169 個 50,700 円

4 三殿台考古館施設維持事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号③）

三殿台考古館の諸施設を日々管理し、適切に維持するとともに来館者に満足感を与えるよう運営しました。

(1) 三殿台考古館の管理

管理対象施設等	事業内容
経常的な維持・管理	・国指定史跡「三殿台遺跡」・管理事務棟・展示棟・竪穴住居保護棟・復元住居・遺構表示用擬木の維持管理。 ・台風被害で破損した屋根を職員により速やかに修繕した。 ・遺跡内草刈り、植栽剪定 ・職員による遺跡内及び周辺の清掃作業や、施設内巡回などの危機管理対策を実施した。
老朽化した復元住居の建替え工事	老朽化した縄文・弥生復元住居について、11 月下旬より 2 月下旬かけて建替え工事が実施された。

開館時間の拡大	平成 30 年度も午前 9 時から開館し、4 月～9 月は午後 5 時まで、10 月～3 月は午後 4 時まで開館した。 「キャンプ in 三殿台」の開催時には夕～朝まで、閉館時間帯の施設利用を行なった。 年 2 回、開館時間を日没まで延長し、「ダイヤモンド富士観察会」を開催したが、天候に恵まれず観測できなかった。 ① 9 月 24 日～28 日 ② 3 月 10 日～14 日
---------	--

(2) 三殿台考古館施設自動販売機売り上げの推移 (千円)

項 目	平成 3 0 年度	平成 2 9 年度	平成 2 8 年度	平成 2 7 年度
自動販売機売り上げ	2 7	2 6	2 9	2 9

(3) 三殿台考古館施設入場者の推移

項 目	平成 3 0 年度	平成 2 9 年度	平成 2 8 年度	平成 2 7 年度
三殿台考古館施設入場者 (人)	1 4, 9 6 0	1 5, 2 5 2	1 6, 1 5 4	1 6, 5 9 7

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	資料収集保管事業では、整理ボランティアによる三殿台遺跡出土品基礎整理、収蔵記録資料のデジタルデータ化などを継続した。また、職員により三殿台遺跡調査時測量図面の整理を実施し、新たに遺跡全体図の再作成を実施した。	B
常設展事業	常設展事業では、職員による学校団体・一般団体・その他来館者へ遺跡・住居跡保護棟・復元住居・北側貝塚について展示解説を実施した。 例年に比べ、夏の酷暑と冬の厳しい寒さという気候のなか、来館者数は 14,960 人で、昨年度とほぼ同様の来館者を得ることができた。また、学校団体の見学は、昨年度の 47 校から 20 校増加し、67 校とすることができた。	A
企画普及事業	市民や来館者に遺跡への理解を深めてもらえるよう、展示解説や体験学習を開催し、生涯学習活動を支援した。特に弓矢撃ち体験は、前年度の 2,323 人の 1.2 倍にあたる 2,832 人に利用していただけた。	S

	また、遺跡ガイドボランティアは新たに 2 名の登録を得て、延べ 74 人が対前年度 23%増となる 1,026 人の参加者をガイドした。 なお、資料整理ボランティアは全体に高齢化が進み辞められる方も出てきており、延べ 574 人にとどまった。	
施設維持事業	老朽化の進む事務棟・展示棟・住居跡保護棟・擬木標示遺構の維持管理を適切に実施した。 職員による遺跡内の草刈り、施設周囲の清掃を実施するとともに、台風による事務棟屋根破損等の被害に対しては職員が迅速に対応した。	A